Liarsoftの嘘つきエンターテイメントマガジン

月刊 USO うそ。

TOPIX

- 東京都に黄雷警報発令中！？
- 転校生(72)ロリコン疑惑浮上　近くろり陣営からのオファーか？
- 茄子たんのはじめましてのおつかい
- 三山音七絶賛！どこでも眠れる携帯枕が通販開始！！
- 恐怖！　新宿に現れた落雁怪人に迫る！
- 今回の会報の紙は古紙100％で製作されています。
- ハレルヤ！世界各地で大流行
- 消費税増税でニコル値上げ！？

TOPIXネタ投稿募集中～　ポイントもつくよ!!



Volume. 43

インディアンとインド人もビックリ！Liarsoft、今年の抱負は

「ライアー嘘つかない」

Quarterly
400ニコル（税込）

cover model=因幡うさぎ～ズ&結奈、テスラ、ネオン、イズミ、ライヒ、ベルタ、ヴァルター　、ゼリービーンズ　photo=忌野Lem

INDEX

SEASONLY LIARMARU

今号の「Angelbullet」「絶対地球防衛機メガラフター」
「信天翁航海録」はお休みいたします。

COVERGIRL

因幡（いなば）うさぎーず



皆様あけおめー！／表紙見ての通り松の内どころかもう節分だけどね／季節は心で感じるものです、ライアーです！／わーウゼエー／ウゼエとかひどい！／まあいろいろあるけど今年もライアー頑張っていきますので宜しくですよー／宜しくですよ！チョコ待ってるよ！／お前には来ないよ／ガーン！

黄雷のガクトゥーン

『学園七不思議／公安委員長』

■１９０９年４月某日、学園都市■

「学園都市の七不思議、って知ってる？」

１９０９年４月某日。ある昼休み。

筐区域こと無数の教室棟ビルディングが建ち並ぶ教育区域、第３０棟ビルの３階の喫茶文化研究部チェーンのテナントに「たまには」と出向き、テラス席に陣取って、いつもの皆（マスター・テスラを加えて！）で他愛ないお喋りに興じていた時のこと。

七不思議。

その言葉を最初に口にしたのはイズミだった。教室でネオンと一緒にお昼は済ませたはずなのに、ここでもバーガーを頼んでもくもく食べながら、可愛く、同時にキリッとした真面目な表情を浮かべつつの一言。学園都市の七不思議。

それは、ネオンも聞いたことのある単語だった。

何度か、クラスメイト女子が話しているのを聞いた風な？

アルベールは「知ってるとも」と堂々と言うものの、いざ口にしようとするとううんと唸って３つまでしか出てこない。ネオンは２つ。そもそも七不思議を口にしたイズミはというと、七不思議という単語しか知らず、内容は知らないとのこと。

一方、マスター・テスラは無言で煙草に火を点けて。

「くだらん」

「まあ、そう言うな。若いうちは噂話ってもんに興味が行くんだよ。つか、お前さんだってまだ２年生だろうが」

「実際のところはどうだ。官憲」

「別段調べてはいねえな」

ＪＪ曰く、以前、逮捕した違反学生が錯乱しながら喚いた言葉で七不思議だか何だかを耳にして、すわ落第街の違法学生団（ギャング）あたりの暗号かと警戒したものの、そういう訳でもなく、調べてもいねえなとのこと。

「移り変わるものさ。そういったものはね。そもそも、２年前は七不思議とは言われていなかったように思う。あった噂もせいぜい四つ、五つ程度。七の数字が付いたのはここ最近かな」

さらりと。

いつものように話題を広げるシャルル先輩。

すると、四不思議なら聞いたことあるなとミスター・ＪＪ。

「四不思議だか五不思議だか、あったな。二年前か。まだありゃあ“バグズ”が落第街を仕切り顔でやってた頃だな」

「懐かしい名前だね。バグズ・モランか。彼の全盛期は、僕らもあれこれと大変だった」

「おっと、シャルル。僕らってのはどの僕らだ」

「勿論、学園都市の学生すべての僕らさ」

「食えねえなあ」紙巻き煙草の箱に手を伸ばし、パパＪＪ。

「？」「？」

ネオンとイズミが同時に首を傾げて「なんだろう？」と視線でＪＪとシャルル先輩に問い掛けるものの、特にそこから会話は広げてこないふたりに、更に疑問の視線。

すると、それまで黙っていたアナベス先輩が「やれやれ」と、舞台役者の女優さんめいた仕草で手を挙げて——

「……まったく。噂の類なら、僕の分野だっての！

ふふふ。最初から僕に尋ねればいいものを、きみたちの情報収集力はそれぐらいなのかい。年若い１年生、じゃないか、もうネオンたちも２年生か。兎も角も若いきみたちが噂に鈍感なのは誉められたものじゃないね。パパ、きみもだよ。お巡りさんは街の噂には詳しくないと足下掬われちゃうぞ」

「俺の脚を掬える奴はそうはいねえっての」

「確かに。ジャン先輩の脚は逞しい。大人の男の貫禄だ」

「待て、ルイ・シャルル。大人の男はこの場には私しかいない」

「マスターは混ぜっ返さないでください。

アナベス先輩、七不思議、ぜんぶ知ってるんです？」

「もっちろん」

得意気なアナベス先輩。

彼女は、意気揚々と「七不思議」を語り始めるのだった。

曰く——

・ディフの塔の鐘

これはネオンも知っている学園都市で一番有名な不思議の噂。

どんな願いも叶うと言われる、ガクトゥーンの鐘。

あれこれあったけど確かに願い（？）は叶ったような気も。

「……」

「どうしたネオン、イズミみたいに真面目な顔して」

「い、いえ別に——」

・ディフの塔のゴースト

これはディフの塔に幽霊が出るという不思議の噂。

「中に入れたっけ、ディフの塔？」

「塔の外に出るらしいよ。近くにね。壁面にも」

「幽霊、飛ぶの！？」

・あるはずのない学生墓地

学園都市では死亡退学者が少なくとも記録上存在しない以上、墓地はない。死なせる前提も学園都市にはない。けれど…。

「お墓、見たことないよね」

「だから噂になってるって訳さ、これが」

・旧校舎

旧図書館と同時期に建設された旧校舎。広大な人工島の地下に存在するとか。潜水艦が眠っているなんて与太話もある。

「そもそも七不思議ってのが全部与太だろうがな」

「もー、パパ、そういうこと言わない」

・夜の廊下を走る奇妙な生き物（ブラウン・ジェンキン）

小さいネズミが学園摩天楼や教育区域の物陰を走る噂。

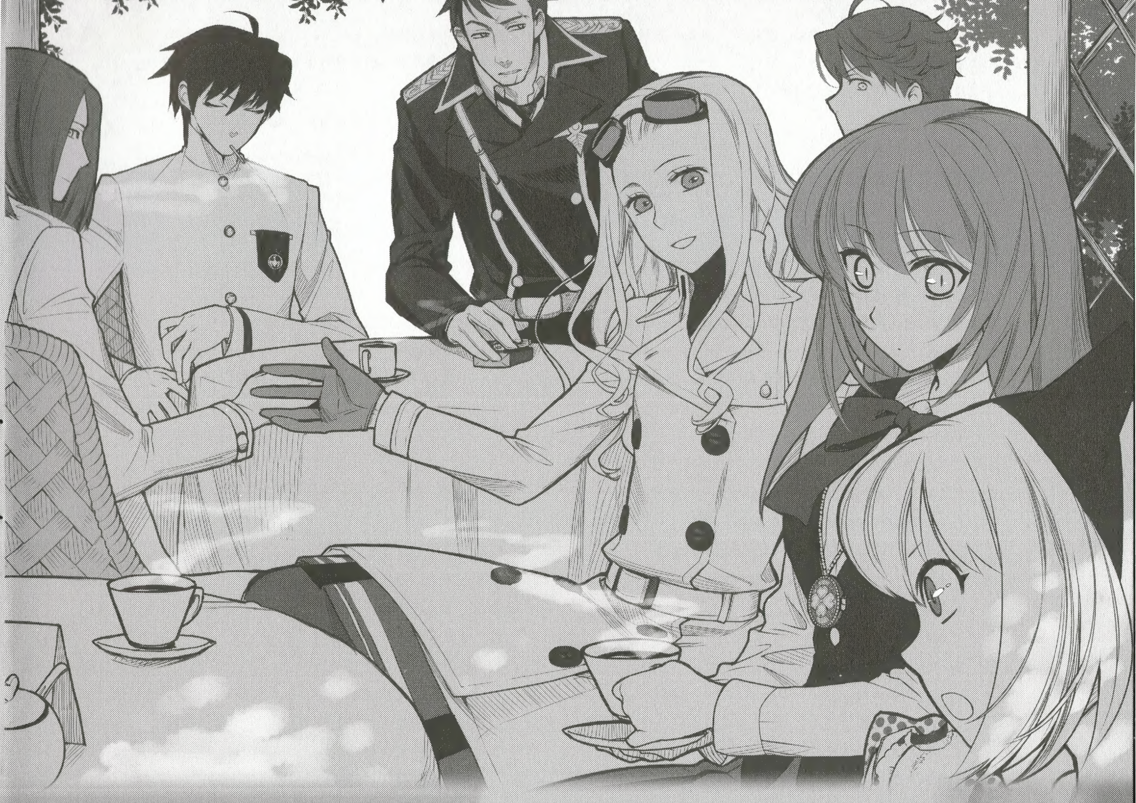
よく見るとネジ巻きが付いていて、人間の顔をしてるとか。

「なにそれきもちわるいー！」

「これ、目撃例が結構あるんだよねえ」

・魔の十三階段

普段は十二段しかない階段なのに、決められた時刻（大体は夜中）に歩いて数えると十三段目があるという噂。



十三段目を歩いた人は煉獄へ姿を消すらしい。
「ひええこわいぃ」
「なんで行き先が具体的にわかってんだよ。変だろ」
「戻ってきたひとがいるんだよきっとこわいぃ」
「イズミ……」

・黄金螺旋階段
黄金色の螺旋階段。これを昇りきった人は勝利と栄光を手にして異能を手に入れる、という不思議の噂。
「異能学生の知り合いはいるが初耳だぞこりゃ」
「パパは昇ったことないんだ」
「あったら俺も自警学生（ヴィジランテ）になるかもな」
「……」
「あれ、どしたのネオン。顔青いよ」
「な、なんでも……ないよ？」

・無人の路面機関車
誰も乗っていない路面機関車が夜ひとりでに走るという噂。
一輛しかない地下鉄だった、という目撃例もあるという。
「アタシ見たことある、あるよ！　地下鉄！」
「はいはい。ロンドンでだろ？」
「そーいう意味じゃなくて、ちゃんと学園都市で」

・美術棟のモナ・リザ
美術棟の教室のひとつに飾られたモナ・リザの目が、夜、ひとりでに動く。見られた人間は呪われたり祝福されたりする。
「モナ・リザって美人だよね」
「うん。そうね、とっても綺麗」

・鏡の中のクライブ・パーカー
学園都市の鏡すべてには事故死したクライブ・パーカーなる男子学生の呪いがかかっていて、夜に鏡へ向かって「クライブ」と三度名を唱えると…。
「やだ怖いなアタシ夜に鏡見られなくなっちゃうよ」
「だから死亡退学者はいねえっての」
「うう…」
「僕の名を三度唱えれば僕が駆け付けるから大丈夫だ」
「ほんと、アルベール？」
「莫迦野郎。女子寮にどうやって駆け付けるつもりだお前」
「頑張れば不可能はないですよ先輩」
「……お前、抜け穴とか作ってねえだろうな」

・魔女の秘密の部屋
恐ろしい生贄の儀式を行う古代の魔女が学園都市に潜んでいて、その秘密の部屋がどこかにあるという噂。夜な夜な生贄となる犠牲者の学生が連れ込まれているのだとか。
「そいえば、キザイア先生が魔女って言われてるよね」
「マスターにね。でもあれは、冗談だから……」

「そうそうテスラ君。あ、でも、前にアンヌさんも同じ風に言ってたかも？」
「イズミお前、上級保安官殿と知り合いなのか」

・怪人白マントと黒マント
白マントは溜息を吐きながら学生にチケットをくれる。
黒マントは音もなく現れて学生を守る――
「自警学生（ヴィジランテ）か？」
「チケットくれるって何だろうな。学園通貨か？」
「アルベール、あさましー！　違うよ、いっつも売り切れで滅多に買えないダグラス先輩の上映初日挨拶に行けるチケットとかかもしれないし」
「いやそっちのほうがあさましいだろ。
ああ、僕も、第七芸術部のスターになりたい……」

・星の王子さま
学園都市には、月から落ちてきた星の王子さまがいる。
学生たちに混ざって授業を受けているとか。
「こういう名前で呼ばれてる男子はそういやいたな」
「サン＝テグジュペリ君だね。彼とは面識がありますよ」
「シャルル先輩は知り合い多いねえ」

◆　◆　◆

「と、有名なところでいうとこんなものかな。どうだい？」
「あの、アナベス先輩、ななつ以上あります――」
「あれれほんとだ、ひいふうみい、十三？」イズミ、首傾げ。
「十三不思議？」ネオンも首傾げ。
「あはは。気付いたか。でもね、どれも正真正銘『七不思議』だって触れ込みのネタなんだ。前はよっつだったのがななつになってるんだから、幾つに増えても不思議じゃないだろう？　有名じゃない噂も入れるなら、二十だって越すかもね」
「？」
首を傾げるイズミ、
ええとね、とネオンは噛み砕いた説明をしようと唇を開きかけたのだけど、途中で遮られる形になってしまった。瞼を閉じてアナベス先輩の語る『七不思議』を聞いていた白い彼、マスター・テスラが口を開いていたから。まったくお前たちは、と、結論じみたものをいかにも口にするぞという口振りで。
「七不思議というものはだな。昔から決まっているものだ」
「そうなの？」イズミ、バーガーもくもく。
「ストーンヘンジ、ピサの斜塔、万里の長城、聖ソフィア大聖堂、南京塔、コロッセウム、そして、地下墓地――」
「？」「？」
また、ネオンはイズミと一緒に首を傾げてしまう。
ストーンヘンジは英国の不思議な環状に連ねた巨石遺跡？
ピサの斜塔はイタリアの有名な塔。万里の長城はシン国の有名な遺跡で、聖ソフィア大聖堂はキエフの有名なもの。南京塔というのは何だろう。コロッセウムはローマの観光名所で、地下墓地（カタコンベ）はローマ時代から残るイタリアのやはり有名な墓所。どれもこれも、学園都市はおろかマルセイユのものでもフランスのものでもない。
「それは“世界の七不思議”かな。ミスター・テスラ」
「そうだ」
鷹揚に、シャルル先輩の言葉に頷くマスター。
ネオンは流石に半眼になって――
「……マスター。あの、学園都市の七不思議、ですから」
「ん」
「ですから、違います」
「ん？」
「違います」
「何が違う」
「ぜんぶです」

■１９０９年４月同時刻、学園都市■

１９０９年４月某日。ある昼休み――
と言っても、この場にいる数名の全員は一般学生とは異なる立場の学生であるが故に、同じく一般の昼休みを取ることはない。
統治塔上層階。
秘密会議室にて。
この会合を提案したレディ・ナイチンゲールの計らいにより、サンドウィッチなどの軽食などを手にしつつ彼らは幾つかの議題を検討していた。内容は多岐に渡るものの、主なものは以下の三つ。すなわち、統治会の段階的解体の行程表（ロードマップ）作成、及び、３月に引責辞任を果たしたウィルヘルム・ライヒの動向（彼からの職務と情報の引き継ぎ作業も遅々として進んでいない）、未だ消えることのない《異能》への対処について。
「ライヒの速度は、これはこれで大したものだ。この短期間で常設査問委員会の設立と、特別顧問への即時就任。これは明らかに統治会の段階的権力分散に対する制動だろう」
赤い髪の男が言った。
誰よりも速度を重んじる彼の言葉には今も揺らぎがない。
「往生際が悪い、とも極東では言う」
黒髪の少年が言った。
瞼を閉じて述べる姿は、寡黙として伝えられる極東の騎士を思わせる。張り詰めた空気を纏ってはいたが、敵意の類はない。
「レディ。貴女はどうお考えなのです」
優美な娘が言った。
優美にして清冽な、貴族然とした娘ではあったが、かつてよりも言葉に込められた冷ややかさは和らいで聞こえる。
「拙速か、巧拙か。わたしたちは後者を選びたいと考えます」
優しげな女が言った。
すべてを認めてすべてを見守ると決めた女だったが、一般学生に害が及ぶ可能性は排除するとも心に決めた女でもあった。
「ゆっくり丁寧に、ね。いいね。
あたしもそっちのほうが好きだよ」
快活な娘が言った。
笑顔に込められるものは今はやはり迷いのないものだった。

そこへ——

姿を見せた人影がある。

一般学生の立ち入りが禁止された統治塔、その最上階へ、護衛学生のひとりも付けずに靴音も高らかに現れた、それは、ひとりの女子学生だった。

統治会メンバーでないのは明らかであるのに、指定制服の改造ではない独自の服装を身に纏った、オリエントの気配を色濃く漂わせた女子。左目には碩学機械式モノクル。胸にはオリエント思想を体現したかのような陰陽、否、是はハッケの模様か。

長く伸ばした艶やかな黒髪は、彼女がオリエントの血筋にあることを強く強く示している。

赤い髪の男が驚いた表情を見せる。

サムライの少年も、瞼を開いて視線を向けていた。

貴族然とした娘と快活な娘は見るからに驚いた顔をしている、が、優しげなレディ・ナイチンゲールだけは「あら」と微笑みながら闖入者を迎えていた。

「ご機嫌よう。統治会の皆さま」

モノクル姿の女子学生が、言葉を発する。

およそ異能の気配など一切も感じさせないどころか、およそ戦闘訓練など受けたこともあるまいという装いであるのに、その女子——いいや、その女史は、明らかに高圧的な仕草、表情、声で以て最高の異能学生５名に対して言ってみせるのだ。

「公安委員長メイリン＝ソン。

統治会の皆さま方には改めてご挨拶申し上げますわ。

ただ今、あらゆる機関機械（エンジン・マシン）はこの部屋の中では動いておりません。特に、保安機器や盗聴機器の類については我が精鋭《十三妹》が解除させていただいております」

「私（わたくし）はあなた方の敵でもあり、味方でもある。

私が力をあなた方にどの程度貸すのか、ウィルヘルム・ライヒをあなた方が止められるかどうか、すべて、あなた方次第。

ですので、こちらから交渉に参りました。

あなた方は、私を敵としますか。それとも——」

（つづく）





作者が風邪をひきまして。
画像はイメージです
うあー
さて今回のお題は・・・と
ずび
くらり
蔵女ちゃん大丈夫ー?
けふけふ
じゃなーい
じゃあ!
そういう時は
ドイツに行くと
いいらしいよ!!
マジか
蔵女とエマの ミュンヘンぶらり旅
München
(ダイジェスト)
次回はちゃんとします…
Dirndl
現地のディアンドル
資料を探せたので
ほくほくです。
これでより
いっそうの精進を!
という訳で行きましたミュンヘン。
ミュンヘンといえばすなわち
オクトーバーフェストであり
女性の民族衣装ディアンドル
であります。
幼児体型では似合わないとする
向きもありますが、ジュニア向け
もお店のウィンドウにはいっぱい
並んでてなかなか綺麗。
お前たちは
日本人か!?
僕はギリシャだ!
初日から人好きな
酔っ払いの洗礼
でっけえ
ビールはもちろん
おいしいです
Schnitzel
カツレツには付け合わせの
ジャムをつけて頂きます。
意外な味ですがすぐ馴れる。
美味。


そういや今回のお宿、２箇所とも湯船無し
だったので悲しい。そのかわり妙に高機能
なシャワーブースだったので良いけど。
ミュンヘンっ子はフランス人よりお風呂
嫌いなのかしら。それとも基本的に夜は酒飲
んで温まって寝ちゃうからいいのかしら。
酒といえば酒場にて
トイレはどこですか!?
Wo...Wo ist W.C!?
あっちだよ
今回の旅行中、もっとも正確に
ドイツ語が伝わった瞬間でした。
あとザルツブルクにも
行きました!
クリスマスマーケットと
観光馬車が名物の・・・
見事だの一
ぶみょっ
ぶみょ?
AIEEEE!!!
ばっふぃ〜ん
馬フンを踏む
ヒロインとは…
クウへ
くらめちゃんと
ミュンヘンに
いってきますね．エマ
五樹・・・夫婦って
なんだろうね
え!?
深刻な!
少女は踏んづけた
馬糞の匂いがした・・・
うわーん!!



ろりVS巨乳い

勇気「ども、ラブネゴのヒロイン、岡田勇気です。このページはろり陣営、きょにう陣営、そしてスレンダー陣営に別れて、それぞれの陣営が持つ素晴らしい部分をテーマに沿ってディスカッションしていく、業の深いコーナーです。ろり陣営は、あたし、岡田勇気！」
モコ「きょにう陣営はピンクパンツァーのモコ」
ノブ「スレンダーは水スペの川野ノブでお送りします！ 今回のテーマは『睡眠』！」

▼ろり陣営お便り紹介

勇気「はじめはあたしたちろり陣営からですよー。今回の解説は——っていうか、いつもこの人なんですけど」
将太郎「うむ。ろり枠はつねにがっちりキープする、ロリータコンプレックス界の貴公子、高将太郎だ」
勇気「貴公子って歳じゃないでしょ！ おっさんでしょ！！」
将太郎「肉体はな。だが心は常に若々しい。いや、ショタっ子と言っても良いくらいだ」
勇気「頭痛くなってきた…… 付き合ってらんないから、もうお便りを紹介してくね」

「元気な子供は可愛いです。力一杯遊んで遊んでスイッチ切れて、パタンと眠ると何をしても起きません。頬っぺを突っついても足の裏をくすぐっても起きないから、そっと布団に運んであげましょう」
（PN さの字さん）

将太郎「なにをしても起きない……そうか、なにをしても起きないのか……」
勇気「だからちゃんと布団に運べって言ってるでしょうが」
将太郎「分かってる分かってる。私だって立派な大人だ。ちゃんと布団に運ぶさ。そして責任持って添い寝を——」
勇気「死ね！」

「ろりっ娘の睡眠は体の凹凸が無いので、どこまでも果てしない寝返りが見ものです。見ているだけで癒されますね。これぞ紳士の嗜みってやつです」（PN ふ～ちゃんさん）

勇気「時々ずいぶん布団から離れたところに転がってたりするよねー」
将太郎「だからそういう事がないよう、私が添い寝をだな」
勇気「黙れ」

「ろりが寝るところというと胡坐の中ですね！ オトナは身動きできなくなればいいと思います！」
（PN みぐらさん）

将太郎「それは素晴らしい。添い寝よりも素晴らしい。私の脚ならいつでも空いているぞ？」
勇気「穢れるからダメ！」

「ろりっこで睡眠といえば、お昼寝！ 大きなお布団にみんなで寝っ転がって…… ん？ エロスが足りない？ そ、そうですね。パンツが捲れ上がっていたり、お腹丸出しと…… うーん、あんまりエロくない。ろりっこでエロってレベル高いですね？」（PN 雪あとむさん）

勇気「だよね！ 普通ちっちゃい子でエロって考えないもんね！ かわいいとかはあると思うけど……」
将太郎「ふっ。それはどうかな。次の投稿を読んでみたまえ。声を出してな」

「○○園児のお昼寝タイムなどで、男性の保育士さんが、尿意を催した子をそっと連れだし、トイレに付き添い、寝ぼけ眼の幼児のスカートとパンツをスッと降ろし便座に座らせてあげて、おしっこをする所を正面から最後まで見届け、終わったらそっとティッシュで秘部を拭き取り、そっとポケットに仕舞いこみ、幼児をお昼寝部屋へ戻した後ダッシュで同じトイレに戻りティッシュの匂いを嗅ぎながら一人シコリあげる。嗚呼、嗚呼」
（PN トリスメギストスさん）

勇気「お、おまわりさーん！ おまわりさーん！」
将太郎「羊の群れに狼が紛れ込んだか。だが、その心意気や良し！」
勇気「良し、じゃないって！ 早く110番—— あああ、それとも119番で黄色いヤツ呼んでもらった方がいいのかな？」

というわけで、ろり陣営公認絵師のみゅらっち先生に、イラストを描いていただきましたー。

勇気「！！」
勇気「みゅ、みゅらっち先生……とうとうあっち側に……」
将太郎「そういうわけだ。安心した

まえ、トリスメギストス君！　キミは１人じゃないぞ！」
勇気「ダメだ……　この陣営はダメな陣営だ……」

▼スレンダー陣営お便り紹介

ノブ「じゃ次はあたしたちの番だね。早速お便りを紹介していくよ。あ、アシスタントはいつものこいつで」
ヒロ「名前くらい言ってよ……」

「寝る子は育つと申しますが、すくすくと背は伸びても胸の方は控え目に。高身長は皆巨乳という風潮には断固として否を唱えたい」
（ＰＮ　猫井篤さん）

ノブ「モデルの人とかは、背が高くても細いもんねー。ああいうんたちって、やっぱあんまり寝てないのかな……」
ヒロ「どうだろう。ノブも講義中に寝るのをやめれば、少しはモデルっぽくなるんじゃないの？」
ノブ「あれは寝てるんじゃなくて力を蓄えてるの！」

「睡眠、睡眠、というと、やはり寝相の悪さのせいでついつい布団からはみ出してしまったおみ足などいかがでしょう。はだけた浴衣から覗く太もも、というのも素敵ですが、スレンダー好きならそうしたむっちり感よりも健康的な筋肉質の腟に惹かれてしまいます。夏、お盆の夜にあこがれのスレンダー従姉と布団を並べて寝るも、緊張のあまり眠れず、そうこうする間に熟睡してしまう従姉。その寝相の悪さをいかんなく発揮し、散々蹴られて一夜を過ごすなんて、何か別の性癖まで生まれてきそうで、なかなか趣が……ありません、かね？」（ＰＮ　葉芽根さん）

ノブ「なるほどー。ヒロはどう思う？」
ヒロ「そういうのは、子供の時さんざんやられたっていうか、今もテントで喰らってるから。寝袋を使ってんのに、どうしてあんなに器用に蹴りを入れられるのか……」
ノブ「それであんた、性癖が歪んでるんだ。でも、誰にそんなことされてるの？」
ヒロ「き、気がついてないだと……」

「寝てるときにめくれ上がるパジャマ！　スレンダーゆえ引っかかる所がないわけですよ！　ねぇ！　そして起きてすぐ眠い目をこすりながらのボサ髪！　これからの時代はボサ髪スレンダーさんの時代ですよ！！
寝始めから起きるまで楽しめる……　ホントこのテーマは天国だぜぇ……！」（ＰＮ　グアゼさん）

ヒロ「ボサ髪スレンダーの時代、かぁ……」
ヒロ（確かに寝起きでボーッとしてる時のノブは普段の凶暴さがない分、結構かわいいというか……無防備なところはありかも……）
ノブ「なんか不埒なこと考えてるでしょ」
ヒロ「そ、そんなことないですよ？」

「寝るときはノーブラ？」
（ＰＮ　みぐらさん）

ノブ「どうかな……　あ、フィーネはつけてたよ。なんかすごいこだわってた」
ヒロ「それはばらさないであげて！」

「パジャマか、ネグリジェかと悩んだ結果両方ちょう有りです。ありあり！　つっかかるものがないからすぐ肌けちゃう寝巻きを直してあげたい。あと『つっかかるものがないと寝返りが楽だね』といって怒らせたいです」　（ＰＮ　しのさん）

ノブ「はだけちゃうなら、浴衣とかもいいよねー」
ヒロ「いつも探検服のノブが言っても説得力ないよ」
ノブ「あたしは良いのよ。常在戦場っていうか、常在秘境の精神でいるからね」
ヒロ「だったら自分で起きようよ……」

スレンダー陣営公認絵師の東森姫先生に、イラストを描いていただきました一。東森姫先生のコメントです。

『寝ていても重力に一切干渉されないスレンダー様ですが、無防備で晒されさらに呼吸に合わせてかすかに上下するところにこそ、日本の侘び寂があるというものですよ！
触れずに見守るか、優しくなでるか……！』

ノブ「そうそう。侘び寂よ、侘び寂。あたしが自分で起きずに、ヒロを目覚まし代わりに使ってるのも、そういうことなのよ」
ヒロ「そ、そうなの、か……？」





▼きょにう陣営おたより紹介

モコ「では最後はきょにう陣営ですー。今回の解説は我がピンク小隊の隊長さんで、ピンクパンツァーの主人公、鰐部ジンさんです。わーはちはち」

ジン「そんなに歓迎されてもな。隊員どもはともかく、俺の事なんて覚えてるヤツいないだろ」

モコ「そ、そんなことないですよ。た、多分ですけど　きっと、もしかしたら、覚えてる人もいる可能性が、ないとは言い切れないというか」

ジン「そこは言い切れよ！　やる気無くなるわ！」

モコ「い、いやでもほら、今は空前の戦車ブームらしいですしっ、ここでピンク小隊健在をアピールすれば、なんか良いことあるかも知れませんよ！」

ジン「しょうがねえな……　で、どんな投稿が来てるんだ？」

モコ「あ、はい。じゃあいまから紹介しますね」

「うつ伏せで寝たらどんなことに……」　　　（ＰＮ　みぐらさん）

モコ「どうなんでしょう？　ちょっと寝苦しそうですよね」

ジン「その辺はよくわからんが、個人的な好みで言えば仰向けのほうがいいな、俺は。隊員どもを教育する時も、すこし崩れた感じが劣情をかき立て――　って、これ戦車のアピールになってるのか？」

モコ「だ、大丈夫です！　じゃあ次のお便り」

「南国の巨乳さんが、水着チックな服装でハンモックに寝転がる姿がいいですねー。ゆったりした雰囲気もさることながら、寝返りをうつ事によって上を向いたおっぱいと布の隙間の、あの見えそうで見えない感じがたまりません！」　　　（ＰＮ　カナエ一号さん）

ジン「ハンモックか……　そういやバナナワニコロニーではよく使ってたな。あれならうつ伏せでもいける」

モコ「下から覗き放題ですもんね」

「寝返りをうつ度に形を変える柔らかいそれをそっと支えて形を保つお仕事ならいつだってお引き受け致します」
（ＰＮ　しのさん）

モコ「どっかの雑誌で、小さい男の子に似たような仕事させてましたね」

ジン「黙れ」

モコ「あ、でも隊長さんも、時々蘭子さんに、似たような仕事をさせられてますよね」

ジン「あれは俺が教育してやっているのだっ。ピンク小隊は完全な縦社会であって、上官の俺にヤツらは絶対服従ってことになってるからな！」

モコ「そうなんですか」

ジン「その経験から言わせてもらえば、この仕事は意外と大変。いや、そんなことより、戦車の話を――」

モコ「では次のお便りです」

ジン「聞けよ！」

「普段は勤勉だけど家ではずぼらな巨乳さんは、ベッドの上だともっとしどけなくなります。彼女のパジャマは、Ｙシャツとショーツのみ。そして日本人離れしたむちむちボディを弓なりに反らしては、豊かな双房でシャツのボタンを毎晩引き千切ります。悩ましく身を捩れば、これ以上括れようがないウエストを更に細めて、その深いクレバスにショーツを食い込ませます。その過程で敷布はもちろん、枕を投げ飛ばし、抱き枕なんて膝蹴りとベアハッグで破壊されることも！　いやはや、巨乳さんは超人だ」
（ＰＮ　セトの教授さん）

モコ「なるほどっ。あ、でも隊長さんはギャップがあったほうがいいって顔してますね？」

ジン「勝手に決めるな。だがまぁ確かにこのシチュエーションは……　ボタンがちょっともったいないが、いいな」

きょにう陣営公認絵師のせんばた楼先生に、イラストを描いていただきましたー。せんばた楼先生のコメントです。

「新年あけましておめでとうございます。今年一番のテーマに関しましては、意外に皆様の素敵妄想の反響が大きくカット描きとしましてもとても楽しく読ませて頂きました。動一番、こぼれそうな膨らみがちょっとだらしなく寝息に合わせて揺れてる様子をイメージしてみたのですが如何でしょうか」

ジン「こ、これは……　ところでモコ。睡眠学習って教育に取り入れた方がいいような気がしてこないか？」

モコ「ちょ、隊長さん、戻ってきて！　戻ってきてください！」

■お便り募集！

早苗「どもっ、ＬＬＥの」若葉「あ、次のテーマは『戦う女の子』です」弥生「ＳＦでもファンタジーでもミリタリーでも、ジャンルは問わないから、とにかく戦ってる女の子の魅力を募集するわ」早苗「その前にあたし達の紹介を――」弥生「時間がないの。黙ってて」早苗「うう」若葉「あと取り扱って欲しいテーマも募集してますよー」早苗「あ、あたしたちの応援もお願いします！」３人「それじゃ、またねー」

花魁春秋

[illegible]を両手に抱えて、小気味よく駆け上がってきた珠琴が襖を開ける。足袋もつけぬ素足のままで。

「はー、今日も寒いねぇ！」

「珠ちゃん、はしたないわよ」

言葉の上では咎めた天音だが、その口調は優しい。まだ年若い遊女の後輩の、この元気のよさは天音にとっても好ましく、この程度の粗相ならかえって珠琴の魅力として映るのも事実であるから。

「旦那様の前ではしちゃだめよ。あと、お常姐さんにも見つからないようにね」

「はぁい」

返事は元気よく、珠琴は長火鉢を中心にした遊女たちの、少し遅い時間の朝餉の輪に加わる。

高瀬屋の二階の大座敷。上客の宴会の予定でも入らない限りは、ここは通常、遊女たちのたまり場となる。部屋を持たない遊女はもちろん、部屋持ちの格子や太夫にとってもだ。

「まぁ、開けるだけでなく器用に閉じてみせるのは見事だけどね。座敷でお客にはやらないでね」

「あ、氷笹姐さん！」

珠琴のすぐ後に入ってきたのは、氷笹だった。いつものように煙管を片手に、続く禿に自分の膳と銚子を持たせて。

「太夫になりたかったら、安く見られるような真似はするもんじゃないよ」

「わかってますって。うわ、なんか今朝は豪勢だねぇ」

遊女たちが集まる輪の中心、熾きた炭が灰に半ばほどまで埋まった火鉢の前に、今日は大きな皿が置かれ、色とりどりの料理が並べられている。多少、形は崩れているものの、膾に山菜の和え物、なんといっても目を引くのは見事に焼き上げられた鯛か。

「うわ、これほとんど手をつけてないね。なんだかもったいない！」

「そうなのよ。せっかくだからいただいてしまいましょ」

つまりは、昨夜の客の残り物。しかし、残されてしまえばこうして、遊女たちにとってちょっとしたご馳走となる。

「お客様だからね。感謝してほしいもんだね」

得意げというわけではなく、どこかつまらなげというか、ばつの悪そうな氷笹の声に、珠琴はうっすらと事情を察する。つまりこれは、昨夜の氷笹の客が余したものであろうと。

「ありがたいんですけど、せっかくいらした旦那様をあんなふうに怒らせてしまうのは……。父郎どのも頭を抱えてましたよ？」

「あーあ、またやっちゃったんだ、氷笹姐さん」

「うるさいねぇ。あれはあっちの野暮が悪いのさ。文句があるなら、珠は食べなくてもいいんだよ？」

「いただきまーす」

取り上げられるより先にと、珠琴は箸をのばす。苦界にあったとしても、飯を食わねば始まらぬとばかりに。遊女たちの日常において、時折訪れるささやかな変化。これなら楽しまねば損だと言わんばかりに。

※　※　※

遊女たちの食事は、他の江戸の庶民と同じく、一日二食が基本でした。一汁三菜かそれ以下の粗末なものであったようで、足りなければ自分のお金で買っていました。また、太夫など格の高い遊女は、自分が面倒を見ている禿や年下の遊女にお菓子を買い与えたりしています。また、宴席ともなれば豪華な食事が出され、その残り物は遊女を含め、店の者の楽しみともなっていたようです。

仏教の影響から肉食はあまりおおっぴらにしてよいものではありませんでしたが、鶏肉、馬肉、猪肉を提供する店は江戸時代にもありました。肉料理、卵などは、精がつくとして薬養食としての側面もありました。食肉目的の牧畜が発展していなかったため、牛肉、豚肉はほとんどなく、前述のような、狩猟で獲得できる食材が中心であったため、肉は鍋にして生臭さを抜いて食べることが多かったようです。

江戸の暖房器具といえば、長火鉢が主流でした。住宅事情の悪い、つまり家の狭い江戸では、囲炉裏は一般的ではありません。長火鉢とは、火鉢に引き出しの収納をつけたもので、引き出しの中は火鉢の影響で乾燥しているため、海苔、茶など、湿気ては困るものをしまっていました。炬燵は、火鉢の上に小さな櫓を組んで、布団を乗せたものが中心です。遊女は逃走防止などの理由から、年季が明けるまで足袋を履くことを禁止されていました。寒い時期に炬燵があればさぞ喜んだでしょうが、あまり一般的ではなかったようです。冬場、夜間の火鉢の火の管理は、行灯の油などと一緒で夜の番の仕事の一つでした。

文交わし
（お便りその他のコーナー）

天音「あけましておめでとうございます。それでは、今回もいただいたお便りにお返事を」

珠琴「まずは、前回の感想から！　氷笹姐さんの艶っぽい一服姿が大好評！　『氷笹姐さんにイラスト、待ってました！　名月をバックに薄く微笑む姐さんがとても綺麗です』（かいなむつきさん）、『オリジナルで煙草を作る事もあったのですね。遊女が一服している姿や表情には、色んな深い思いが潜んでそうだなと感じました。その他の費用も含めると、遊郭で氷笹姐さんの煙草を吸えるまでの道のりは遠い……』（カナエ一号さん）」

氷笹「ありがたいね。江戸に届く煙草はたいていが北関東で栽培されたものらしいね。他には、四国なども有名だったらしいねぇ」

天音「煙草に限らず、新大陸からもたらされたものは、ヨーロッパを経由してあっという間に日本に伝わってきたんですよ」

氷笹「男の欲望に直結したものってのはそういうもんさ。梅毒とかね」

珠琴「それは怖いなぁ……。で、今回は冬の風物詩、というより、冬の高瀬屋の日常風景です。『冬の風物詩といえばこたつでみかん！なのですが火鉢[illegible]でしたっけ？　高瀬屋さんならお客さんに提供したりしないでしょうか』（ナカさん）」

天音「冬の寒さは、着物に綿を入れたり、火鉢を囲むことでしのいでいたんです」

氷笹「燃料は木炭。備長炭などの白炭は高級品で、黒炭を使ってたみたいだね。炭団も江戸時代に流通し始めたのさ」

珠琴「他には、こんなお便りもありました。『色々と勉強になりました。高い女、安い女があれば高い店、安い店もあったんでしょうね』（雪あさぎさん）」

天音「吉原では、遊女、店ともにきちんと格付けされていたことは、ゲームをプレイしたみなさんならよくわかりますよね」

氷笹「もちろん、吉原以外にも遊郭はあってね。それじゃ、次回はこのへんについてやってみようかね！」

珠琴「ちょっと急ぎ足でごめんなさい！　季節的には春だから、春のお題も待ってます！」

天音「それでは、また次の機会にお会いしましょう」

Memory of ancient forest.

ロビンくん



ロンドンが好きで何度か訪れたことがあります。
主にホームズとワーズワース、 ミュージカルに
博物館が目的でした。
ヴィクトリア＆アルバート博物館は装飾品を
主に展示しており、
そこのパッチワークキルトの
存在感はそれ自体に意思がある
ようで特に印象深かったです。
服は人に寄り添うもっとも
身近な物ではないかと思います。
そんな人生の端切れを
寄せ集めると何か生き物が
生まれてきそうではありませんか。
プーさんの挿絵を描かれた
Ｅ.Ｈ． シェパードさんの
スケッチ画もありますので、
ロンドンに行かれる際は
Ｖ＆Ａへぜひ。
…こんな怖い顔の
プーさんの隣でおススメするのも
なんですが…。

プーさん



表のロビン君 （左） と裏のロビン君 （右）
表のロビン君の瞳には光がありません。

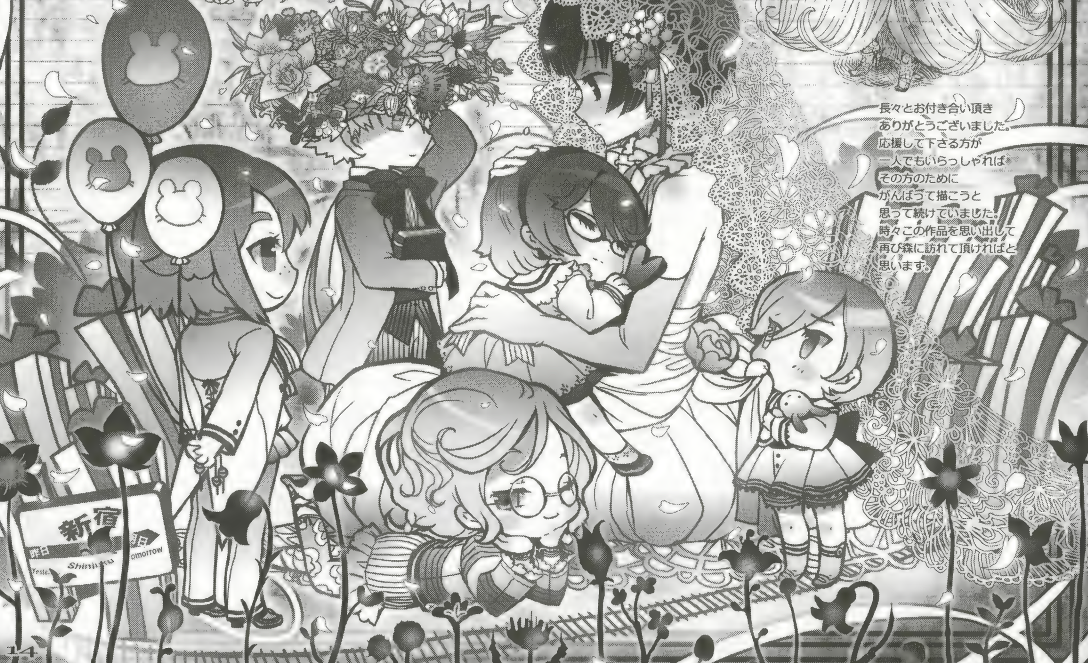
クリスマスソングは
『Little Drummer Boy』が大好きなのですが、
ＰＶで男の子がこんな服を着ていました。
マーチングバンドの服はきっと特別なのでしょう。
輝く瞳で胸を張る少年を見るとオカンの気持ちに
なって少し涙ぐみます。
あと、外国のの古い絵本などにに出てくる
つり靴下がとにかく好きで、いつかキャラクターに
履かせたいと思っていました。



白の女王(改)

作品内の白の女王は後にビジュアルが必要になったので、
時間の都合上ボツになったペッコリアのデザインに
なっています。 長年白の女王として描けなかったのが
心残りでした。 エッ？いまさら？な感じですが
改訂版です。 アリスから、 火の山で裾が焦げた
スノードロップ型花のドレスとショール。
羊に姿を変えるのはメーデイアなので
モフモフの服と羊のような髪
ヘカテ信仰の三叉の冠。
ナルニアの白の女王から
ギガースのヘビ型の靴とか…。
…もう二２～３パターン
描きたかったですが時間が…。





長々とお付き合い頂き
ありがとうございました。
応援して下さる方が
一人でもいらっしゃれば
その方のために
がんばって描こうと
思って続けていました。
時々この作品を思い出して
再び森に訪れて頂ければと
思います。


蒼天スチームパンカーズ。
グランディアの衣装、
着せてみました。
雰囲気が似てるので、制作時に
参考にした作品です。大好き。
で、配役を割り振ってみたら、
どう考えてもカルベルティが
ヒロイン枠なんだよなぁ…。
という話でした。

魔都拳侠傳

マスクド上海



■マスクドシャンハイ未公開ファイル

このマスクドシャンハイ未公開ファイルは、俺が魔都上海で遭遇した事件のうち、本編では様々な事情で取り上げられなかったものについて、詳しく紹介していこうというコーナーだ。

今回取り上げる事件は、我が大日本帝国陸軍の青年将校たちによる蹶起事件だ。

奇しくも1936年の帝都不祥事事件と同じ2月26日に起こったことから、当時の新聞各社はこの事件を『シャンハイ226事件』などと書き立てていたが、真相を知る者は別の名前で呼んでいる。その名も――　『昭和メガネっ娘維新断行事件』と。

言うまでもないが、この事件、上海の公式な記録には一切残っていない。その辺は未公開ファイルに載っている他の事件と同じだが、この事件に関してはその理由が“思い出したくもないから”“無かったことにしたい”ってことなので、暇のあるヤツだけざっと目を通して、できれば早いとこ忘れてやって欲しい。

▼青年将校たちの主張

さて。読者諸君も一度は「皇道派」「統制派」といった言葉を聞いたことがあるだろう。どちらも大日本帝国陸軍に存在した派閥だ。これらふたつの派閥については、今回の事件には特に関わりはないので、詳しく知りたい人は自分で調べて欲しい。この事件簿で取り上げるのは、この2大派閥の影でひっそりと、闇に隠れて生きていた小さな派閥。通称「眼鏡派」の青年将校たちである。

「皇道派」がそうであったように、彼ら「眼鏡派」の青年将校たちは眼鏡に、正確には眼鏡をかけた婦女子に強い影響を受けていた。

上海憲兵隊の調書によると、彼らは日本租界某所にアジトを用意し、怪気炎を上げていた、とある。以下に憲兵隊の調書から、彼らの主張を抜粋する。

『我が神洲たる所以は万世一系たる天皇陛下御統帥の下に、挙国一体生成化育を遂げ遂に八紘一宇を完うするの国体に存す』『では八紘一宇とはなにか！』『それは眼鏡である！』『正確には眼鏡をかけた婦女子である！』『なんとなれば、眼鏡をかけた婦女子は美しい故に！』『眼鏡万歳！』『そして、我が帝国は、眼鏡の幸（さき）わう国！　眼鏡の扶（たす）くる国なのだ！』『その証拠に――　神聖にして不可侵であるところの現人神もメガネをかけておられる！』（憲兵隊付記：ここでどよめき）『有史以来、眼鏡をかけた神を抱いた民族は、我が大日本帝国だけなのだ！』（憲兵隊付記：以下、意味を成さない叫び。アルファベットで記すなら「M・O・E」となる雄叫びの連呼。日本語ではない？　付き合いきれない。もう帰りたい）

全ての壁が美人画で埋め尽くされたアジトで、このような儀式にふける「眼鏡派」青年将校たちは、憲兵隊たちによって「陸軍の恥部ではあるが無害」と認定され、時たまアジトの大家に深夜はうるさくしないよう注意される程度の存在であった。

彼らが「眼鏡仙人」に出会うまでは。

左ページの写真を見ていただきたい。彼女が悪仙人「眼鏡仙人」である。

全ての知的生命体に眼鏡という名の叡智を授ける！　彼女の主張（と容貌）は「眼鏡派」の青年将校たちを虜にした。皇道派の青年将校たちが北一輝に影響されたように、彼らはメガネ仙人に傾倒し、そしてあっさりと暴発する。

2月26日。

前日の夜半から、上海は雪が降り始めていた。

▼蹶起

切っ掛けは「接触レンズ（コンタクトレンズ）工場」建設計画であった。

これを人類の叡智であるところのメガネを拒否する愚行と断じ、「眼鏡維新断行、尊鏡討奸」をスローガンに、彼らは蹶起した。

蹶起趣意書には、彼らの眼鏡に対する真摯な想いと、接触レンズに対する憎

しみが記されている。一部を抜き出してみよう。

「（前略）然るに頃来遂に不逞凶悪の徒簇出して私心我慾を恣にし至尊絶対の尊厳を藐視し僭上之れ働き万民の生成化育を阻碍して塗炭の痛苦を呻吟せしめ随つて外侮外患日を逐うて激化す。所謂接触レンズ等はこの国体破壊の元兇なり（後略）」

青年将校たちは、英国資本の接触レンズ工場を占拠。接触レンズに関する全ての技術を放棄するよう上海市民に迫ったのだった。

▼解決

壮絶なまでに美しい陸軍参謀（自称）辻政信を通じて、この事件の解決を依頼された俺は、裏に悪仙人の存在があろうと無かろうと、眼鏡派の青年将校たちの愚挙を正すつもりであった。

正直に書こう。陸軍「眼鏡派」を作ったのは、俺だ。士官学校時代の俺は、この国と陛下と、そしてなにより眼鏡に忠誠を誓っていたのだ。

彼らの行為は、眼鏡派の立場をなくす行為であった。実に不愉快であった。馬鹿野郎だと思った。激怒に似た気持ちであった。

そもそも彼らはメガネっ娘がどういうものか分かっていない。眼鏡をかければメガネっ娘という訳ではないのだ。メガネの上っ面しか見ていないから怪しげな仙人に煽動されるのだ。愛のないテロリズムは、最も悪質の犯罪である。馬鹿ともなんとも言いようがない。

単身接触レンズ工場に乗り込んだ俺は、魂全てをかけて青年将校たちの説得を試みる。右ページのように。

心を打たれた眼鏡仙人と眼鏡派青年将校たちは投降し、陸軍は将校団の蹶起を「酔った勢いの犯行」として処理した。

煽動した眼鏡仙人は、陸軍眼鏡派を代表し、俺が至高のメガネプレイで封印。

青年将校も眼鏡仙人も満足、そして俺も満足ってことで、事件は無事解決したのだった。

▼今回登場の仙人

○仙人名「眼鏡仙人」／推定仙人パワー：１００１万パワー／特殊能力：コンタクトレンズを滅ぼし、あまねく知的存在に眼鏡の叡智を授ける。

※今回登場の仙人は、PN：竜宮さんからいただきました。竜宮さんには５p差し上げます。投稿してくださった方には３p差し上げます。ありがとうございましたー。

■投稿募集

このコーナーでは皆さんから投稿をお待ちしております。

○あなたの考えた仙人を募集！

あなたの考えた仙人を募集します。葉書もしくはメールに「仙人の名前」「特殊能力」「推定仙人パワー」を、外見と一緒に書いてお送りください。ちなみに正義仙人の仙人パワーは１００万弱。マスクドシャンハイは人間から仙人に改造された戦時急造仙人なので、若干低めの８３万仙人パワーとなっています。投稿された仙人の中から１人を選び、未公開ファイルに登場させていただきます。採用された仙人は磁油２先生にイラスト化される予定です。

【記入例】

・仙人名「戦車仙人」／特殊能力：超火力のビックボディを誇る仙人。悪仙人チーム永遠の次鋒として君臨する。あんこう大好き／推定仙人パワー：４６０万仙人パワー。

○事件のジャンルも募集中！

同時に皆さんから事件のジャンルも募集しています。未公開ファイルのうち「燃え」「バカ」「エロ」の３ジャンルから見たいものをひとつと、もしあれば、他に出て欲しいキャラクターや見せ場などを一緒に書いてください。無い場合はジャンルだけでも構いません。投稿されたジャンルのうち、一番多かったものを反映した事件の紹介を行う予定です。

【記入例】

・事件の傾向：燃え／出して欲しいキャラ：丁黙邨と李士群／その他：鳩が出るといいなぁ。



漆黒のシャルノス
『或るモルグの記憶』

■西暦１９０８年、季節不明。ロンドン■

　――それは、黒の王が既に去った街でのこと。
　――それは、少女が幻異に近付きつつあった頃のこと。

　失踪者は、都市につきものだ。
　勿論、それなりの先触れのある者もいる。友人や家族に苦悩や危急を伝えんとして惑い、悶え、内的要因もしくは外的要因によって姿を消す。そこからは先触れのあるなしに関わらず、お決まりの流れとなる。職場、学校、交友、親族、等々、自己の所属するあらゆる社会と途絶し、音信が途絶え、在るべき場所から肉体さえ消え去ってしまう。
　そして、そのうちの幾らかはここに来る。
　彼女の場所。つまり、死体置き場（モルグ）にやって来る。
　冷ややかに沈む空気が実に似つかわしい暗い部屋に来て、冷たいクローム製の鑑識台の上で仰向けになって。
　こんなにも醜く膨れあがって、血臭と死臭を振りまいて。
　そして、言いようもなくねとついた空気感。テムズの汚染水を吸い取った死体は特にそうだ。臭気とは別の独特の気配を漂わせて、それが、どうしようもなく彼女の気分を暗くさせる。
　彼女はこの世の何よりも死体が嫌いだった。
　だからこそ、仕事場（モルグ）にいる時は必ず黒いヴェールで顔覆っている――と言えなくもない。死体に接した空気と自分の顔が直接触れ合うと考えただけで気が狂いそうになる。
「テムズに落ちるの、やめて欲しいのだけどね。本当に。死んでから落ちようが落ちてから死んでようが、どっちにしたって、酷い状態になるから」
　彼女は、ロビン・ファネルは肩を竦める。
　黒の喪服に身を包む、些か狂った検屍医。
　服の上からでも見て取れる優美な肢体、ヴェールに覆われた鼻梁、どちらの線（ライン）も彼女が美しく在ることを主張してはいるものの、実際にその肌を見た者は多くない。気に入った死体には彼女自らその肌を見せることがある、という噂がまことしやかに囁かれてはいるものの、そんなものは大嘘だ。何が悲しくて死体なんぞに自慢の肌を晒さなくてはならないのか。
「こいつら、死ぬぐらいなら生まれて来なければいいのに」
「随分と無茶を言う。ドクター・ロビン・ファネル」
「……ああ、もう。来客があるとは聞いてないんだけど」
　暗い部屋の中――
　機関灯で天井へと伸び上がる人影はふたつあった。
　喪服を纏った女のものがひとつ。
　そして長身の男のものがひとつ。
「久しぶりだ。ドクター」
「ええ。久しぶり。クロウリー。まだ死んでないなんてね」
「残念ながら、お前の恋人になる資格はまだ得ていない」
「冗談。あたしは死体なんかと寝たりしない」
「おや――」
　男が、人影そのものが肩を竦める。
　相も変わらず致命的に冗談が下手な上に自分は一流の喜劇役者（コメディアン）だと勘違いしている様子で、男は、顔面に貼り付けた独特の笑みを彼女へと見せつける。歯を見せて笑うこの男の表情を見ると、いつも、彼女は思うのだ。よくもこんな死臭血臭の満ちる中で、ハンカチも呼気覆面（ガスマスク）もなく口を開くことができるものだ、と。ある種の敬意さえ感じる。
「別に、あたしを口説きに来た訳でもないでしょうに。あんたたちは忙しいんじゃなかったのかしら、偉い人が帰ってきたとかでかかりきりなんでしょう。あれこれ。人殺し」
「ああ、まあ」男は笑みを見せたまま、膨れ上がった水死体を覗き込む。男女の区別さえつかなくなったそれの顔へ無遠慮に右手で触れながら「シャッガイ計画は基幹計画ではあるものの、黄金王閣下の段取りとは別の命令系統だ」
「やめて。あたしはね、片足程度で済ませてるの。ヤードだろうがあんたたち相手だろうが、届いた死体を解剖するだけ。あんたたちの計画を聞き出すつもりもない。巻き込まないで頂戴」
「つれないな、ドクター。こちらは、意中の相手の気をどう引いたものかと思案しながら仕事の話をしているだけだ」
　笑ったまま嘘を言う。
　嘘の吐けない男よりはましかも知れない、と彼女はひとりの男の横顔を思う。死なない男。死のない男。たとえ世界が終わろうとも彼だけは死ぬことがない。黒の男。正しくは、男のかたちをした黒、と言うべきだろうか――
「口説くならモルグの外にして」
「ここでは駄目か」
「冗談を……」
　僅かに、溺死体へと視線を向ける。
　この場はどうにもふたりきりの場所とは言い難い。
「溺死体は良くない。その理屈は分かる。ならば、我が異能（アート）のひとつ《大いなる獣（トメガセリオン）》で以てその屍体、高熱焼却でもしてみせようか」
「変な臭いになるでしょうが。やめて。殺すわよ」
「やれやれ」
　男が、再度肩を竦める。
　死体から手を離し、一歩、彼女へと近づきながら。
　姿が幾らか露わになる。英国風とも新大陸東部風とも取れる仕立ての良い黒い紳士服（ダークスーツ）に身を包み、赫い遮光眼鏡（サングラス）で瞳を隠した男。その顔には今なおひとつの表情が張り付き続けている。あの、独特の笑み。何かに悦ぶ訳でもない。何かに安堵する訳でもない冷ややかなものだ。
　男の笑み。表情。確かに人間の表情ではあるのに、どこか無機質を思わせるのは何故か。
　鮫の笑みだ。
　笑うはずのないものが、そうしている。
　世界の歪みを感じさせる表情ではあった――
「殺せるか？　誓約者（カヴェナンター）を？」
　挑発された。そう、認識した瞬間に体が動いていた。
　手のひらの中にするりと「取り出した」クローム製の解剖用メスを鋭く一閃させる。口説く云々を口にするだけあって油断しきって６フィートほどの相対距離に接近していたから、一歩詰めながら右手のメスを振り抜くだけで正確に掻き切れる。喉を。心臓から脳髄へと続く重要な血管をたちまち切断できる。彼女は世界中で何よりも死体が嫌いだったが、別段、生きている生物が好きな訳でもない。生物は簡単に壊れる。死ぬ。生きていても、すぐに死ぬ。簡単に死ぬ。死体になる前のものか死体になった後かの



違いに過ぎない、という見方もできる。
　だから嫌い。
　だから殺せる。簡単に。
　ロビン・ファネルは嫌いなものを殺すことに躊躇しない。
「激しいな」
「……ッ」舌打ち。ナイフを握った手が、男の手で柔らかく受け止められていた。もしも男が手首を返せばこちらの手首と肘がたちまちのうちに砕けるだろうと理解できる程度に、柔らかく。呆れるほど機能的に。
「危ない、危ない」
「あら。もしかして惜しかった？」
「いいや。危ないのはそっちだ。危うく、異能で灼き尽くしてしまうところあった。我ら《結社》の上級エージェントは危険な存在だ。こういう風に」
　鮫の笑みを浮かべて、男は続ける。
　彼女に仕事を与えてくる「得意先」のひとつ、欧州および世界の闇と影にたゆたう巨大秘密結社《西インド会社》の上級エージェントたる、彼。黒い紳士服姿。背の高い男。鮫の笑み。
　誓約者――
　その名は彼女も知っている。マルセイユで異能なるわざを得た、ひとのかたちをした兵器。数年前、不穏な蠢動を続けるオスマン機関帝国で暗躍する各国の諜報工作員を悉く鏖殺し、アフリカ大陸で実験展開されていた新式戦車部隊を全滅させ、南新大陸における某国の革命をただの１名で叩き潰した、人型の化け物（フリークス）どもの総称。男は、そのひとりという訳か。
「……化け物」
「最高幹部のクローム体ほどではないさ」
「はいはい。それで、化け物が、人間さまに何の用よ。見て欲しい死体があるなら、さっさと持ってきなさい」
「ファイルでも構わんな」
「まあ、ね」
　男の右手が死体に触れたばかりだったことを思い出して、背筋を震わせながら、彼女はぱっと彼から離れる。メスを解剖台脇のテーブルへと置いてようやく、そこに見知らぬファイルケースが置かれていることに気付く。
「手品は嫌いなのよ。手渡しなさいな」
「これは失礼」
「ったく」
　言いながら、ファイルを開く。
　そこにあったのは無数の死体の記録だった。
　自然死でも事故死でもない。
　殺されたものだ。

　――恐らく、すべて、ひとりの人間の手によって。

（つづく）

●漆黒のシャルノスFullvoiceReborn好評発売中！
●漆黒のシャルノスWebノベル、ライアーソフトOHPにて掲載中
●本コーナーではご意見ご感想を募集しています。
ライアーソフトOHPファンクラブページ内の投稿フォームもしくは「fc@liar.co.jp」宛てのメールでお送りください

■前回までのあらすじ

祖母に反抗して過去へと戻り、若い頃の祖母を倒そうとするダリアと、ダリアにそそのかされて連れて来られた梅と蝶子。

大輪女子女雪相撲部の活躍でダリアの夢は塵と消えたが、試合場が炎上し逃げ場がなくなってしまう。

侘助、鬼百合、マイの海、三ツ葉黒、雛菊の富士、豆斯波の７人はダリア達と共に一時的に未来へ待避することにしたが、行った先の未来はダリア達がいた未来とはまったく違った世界だった——

■大いなる羽ばたき編
～７人の女雪力士＋３人～

見渡す限り荒野だよ？　もうさ、オーストラリアに来ちゃったのかと思ったよ。……それオーストリアじゃなかった？　ま、いいや。

それでね！　ぶぉぉぉぉって砂煙あげて何台か車が来たから手を振ってみたの！　助けてーって叫びながら！　そしたらさ！　鉄パイプの車に乗ってる人がモヒカン頭でさっ！！

「なんだその格好は。女雪力士気取りか？生意気な！」
「気取りっていうか……女雪力士？」
「侘助ぇっ！　女雪力士ではない！　大学女雪力士だっ！！」
「ぎにゃん！」
「そ、そんな細かいこと、どうでもいいじゃないですか！」
「ダリアぁっ！　細かい事ではないっ！」
「ぎにゃん！」

モヒカン野郎を倒す前にあたしとダリアちゃんが倒れそうになったよ。

「このご時世に女雪力士の真似だけじゃなく、大学女雪力士を名乗るとはいい度胸じゃねぇか！」
「度胸の問題ではなく、本当に私達は大輪女子大学の女雪力士なのですが」
「た、たた大輪女子だと！？　その名を騙るとは……」

ヘラヘラ笑ってたモヒカンさん達の顔色が変わってさ……斧持って襲ってきたの！！

「無礼者は放っておけねぇ！　死ねぇいっ！」
「なんだコイツら！？　小百合！　やっちまってもいいな！？」
「やれ」
「よっし！　必殺！　ブリザード張り手ー！」
「女雪力士を騙るだけの素人張り手なんか効くわけねぇだろうが……うわあああぁぁぁ！！」

モヒカン軍団……１０人くらいいたのかな？　三ツ葉さん１人で片付けちゃったったんだ。

「凄ぉい！　素手で倒してるぅ！　蝶子ぉ、三ツ葉黒さんのことぉ、お姉様って呼ばせていただいてもいいですかぁ？」
「うむ、くるしゅうない」
「何が『くるしゅうない』だ！」
「あたたたた！　いてーだろ！」
「あぁん♪　お姉様かわいそぉ☆　お姉様の代わりに蝶子のことをぶってぶってぇ♪」
「ならば！」
「ぎゃ！　い、痛い……本当に痛い……」
「鬼百合関、部外者へのビンタは良くありません。部外者へビンタするのであれば代わりに副部長のこの私が受けます」
「マイ、この３人はすでに体験入部者だ。お前が受ける必要は無い」
「……そうですか」
「おば……いえ、マイの海関。どうしたんですか、そんなに寂しそうな顔をして」
「なんでもありません。梅さんは気遣いの出来る優しい方ですね」
「そんなことを言われたのは初めてです」
「きっと親御さんの教育がよかったんですね」
「は、はぁ……まぁ……」
「あ、あの、鬼百合関」
「ん？　どうした雛菊」
「あそこの人が気づいて欲しそうにこちらをみていますが放っておいてもいいんですか？」

あたしも雛菊さんがいうまで気づかなかったんだけどね、一台だけ鉄板を貼り付けた立派な車があって、その前にまわし締めた人が立ってたの。

で！　で！　誰だと思う！？

……や、本人じゃなくて。そっくりな人。

まあ、分かんないか。

「民子！　オマエ、こんなトコで何やってんだよ！」
「な、なんでお祖母ちゃんの名前知ってんの！？　……あ、じゃなくて！　ちょっと待ちなさいよ！　段取りってもんがあるでしょ！……コホン。見事な張り手ね。まさか関東に、まだまわしを締めて反抗すると——」
「んなこたーどうでもいいんだよ！　何が起きてんのか説明しろよ民子！」
「な、なによ！　アタシは民子じゃないって！　恵美子！　田村恵美子！　人呼んで——麗雄張瑠怒（れおぱるど）！　民子はお祖母ちゃんの名前！」
「民子の孫？　ウソでー。そっくりじゃねーか。なーなーダリアさー、オマエ達の未来では民子はどうなってんの？」
「民子さんて誰ですか？」
「覇権黒逸大の林民子。錦貝大牙って四股名の」
「あー……はいはい。お祖母ちゃんのライバルでしたけど大関止まりでした。でもマニアックないい取組してましたよ」
「ねね！　あたしはどうなってるの！？」
「え？　侘助さんですか？　さぁ……聞いたことないですよ、侘助なんて四股名」
「…………」
「オマエあれじゃね？　彼氏とやっちまって女雪相撲部退部とかじゃね？」
「そんなことしませんよ。あたし、女雪相撲一筋ですから」
「オマエら、なにを勝手なこと言ってんの？

タミばーちゃんは全国大学女雪相撲協会の初代武装親衛隊長じゃない」
「なんだそれ」
「ね、ねぇねぇ！　この世界でのあたしはどうなってんの！？　あたし大輪女子の侘助っていうんだけど！」
「侘助などという四股名、聞いたことがない」
「えー……」
「元気出スっスよ。ってダリアちゃんも元気ないっスね」
「だって、この世界だとあたしなんか存在してるかどうかも怪しいし」
「それは……掛ける言葉がないっス」
「まあ、なんでもいいんじゃね？　どーせこの世界はオマエの世界じゃねーんだから」
「そうなんですけど……」
「おしゃべりはこれくらいにして……アンタ達、威勢がいいから全国大学女雪相撲協会の幕下にしてあげるわ」
「幕下？」
「そ。幕下という名の奴隷」
「っざけんじゃねー」
「鬼百合陵の造営に直接携われるのよ？　名誉なことじゃない」
「鬼百合……陵！？」

……やっぱ見ちゃうよね、小百合さんのことを。みんなもそうだったみたい。

「小百合……この世界のオマエは何やってんだ?」
「知らん」
「そ、そうですよ。鬼百合関がそんなこと、す、するわけ無いじゃないですか」
「雛菊！　声が疑っている！」
「ぐっ！」
「そそそそそうですよ！　わたっ私も鬼百合関を信じ、信じています！！」
「落ち着けマイ、この世界の私が、この私と同じままであるとは限らない。それにこの世界の鬼百合が私であるとも……詳しくは麗雄張瑠怒から聞くとしよう」
「……そうですね。では私が立合ます」
「ふ、3代目武装親衛隊長のこのアタ……あれ?　なんか目が怖くなってる?」
「そうですか?　私はいつもと変わりませんよ?」
「お、オマエの普段なんかしらない！」
「……侘助さん、豆斯波さん、私はいつも通りですよね?」
「う、うっス」
「どど、どすこい」
「ま、まあいい！　錦員大牙の血脈を受け継ぐこの麗雄張瑠怒が負けるわけがない！！」
「はいはい」

あんなに怖いマイさん見たの、初めてだったかも。もうね、なぶり殺し。張り手一発でフラフラの麗雄張瑠怒をサバ折りして、気絶しそうになったら放して、持ち上げてクルクル回して……ポイってさ。

「では麗雄張瑠怒とやら、全部話してもらおうか」
「は、はひぃ……」

麗雄張瑠怒の話しだと201X年に核戦争が起きて女雪相撲が支配する世界になったんだって。
それで世界で唯一の女雪相撲横綱を名乗る当代の鬼百合が、歴代の鬼百合の偉業を讃える古墳?　遺跡っていうのかな?　大きなお墓を作ろうとしてたらしいの。
その『当代の鬼百合』っていうのがさ！
なんとっ――

■みんなで立ち向かおう！ 女雪力士物語

ユーはショックな近未来へ来てしまった彼女たちのこの先を決めてしまおう！
今回の募集項目は以下の通りです。

1：『当代の鬼百合』とは誰なのか1
謎の近未来で鬼百合の四股名を掲げる女雪力士は誰の関係者なのかを明記しよう！

2：『当代の鬼百合』とは誰なのか2
1で回答した当人なのか、その子、孫なのかを明記しよう！

※回答結果は次回の当コーナーに反映されます。投票数の多い結果を採用します。
※このコーナーでは基礎投稿点1点の他、今回は回答1項目につき2点が加算されます。



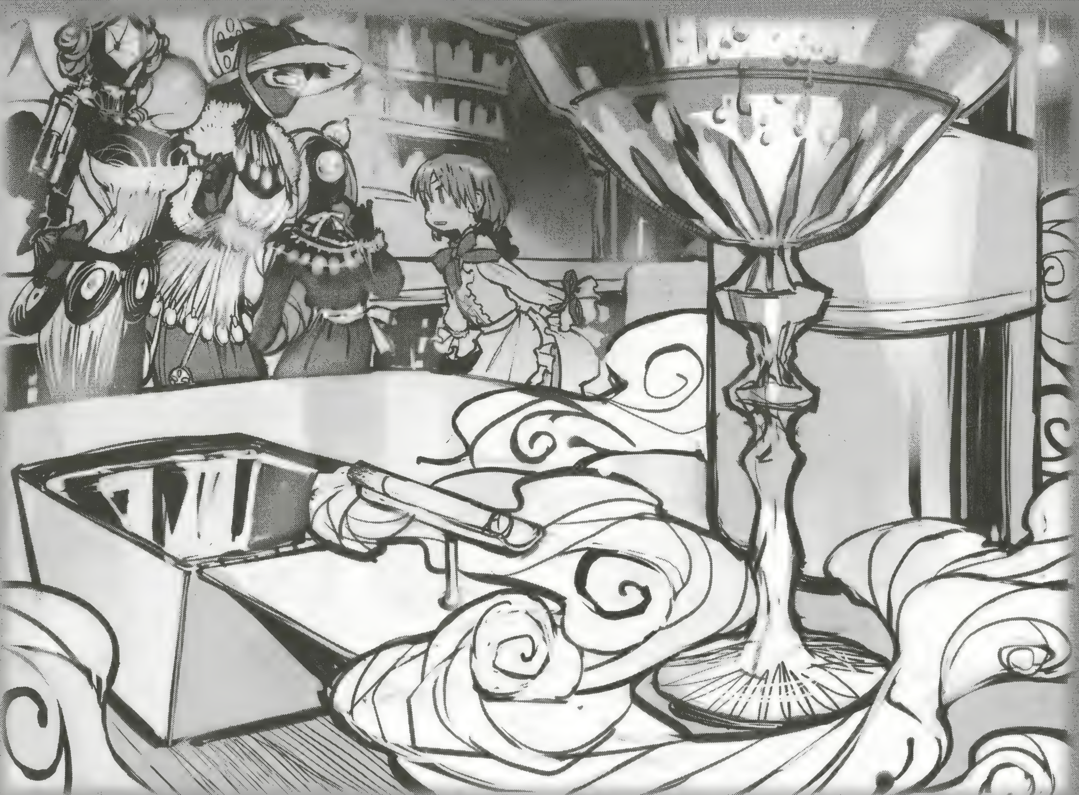
『1909：薄暗いバー、ひとり』

また、夢を見てるんだと思う。

あたしは夢の中ではどこにでも行ける。Aは、やはりきみは夢を歩くんだね、とか、そんなことを言ってるけど、詳しいことはよくわからない。
あたしは夢の中で、前に来た場所にまた来てた。
あ、ううん。
実際に来たことのある場所じゃなくて。前に「夢で」来たことのある場所。薄暗い場所。
薄暗くて、でも、ちょっといい雰囲気。
悪くない感じ。ちょっと、大人っぽくて素敵な感じ。
バーっていうんだよ。前にここへ来た夢を見た後、百科事典で調べて名前を知ったんだ。大人が、お酒とか飲む場所？
きれいな音楽が流れてる。これは覚えてる。素敵な音、前にも聴いたことのある感じの曲。ほら、あたしはブロードウェイでもこういう曲を聴いたよね。
覚えてるよ、サムの弾いてくれたピアノ。
ジャズ。そういう曲。
奥のほうの……カウンターっていうんだよね、奥まったところにあって、細長くて、四角形に折れ曲がってるテーブル。百科事典の『バー』のところで読んだから名前は多分これであってる。そこの奥には、白い服の人がいてさ。
あたしのほうをちらっと見て、何か言うのかなと思ったけど何も言わなくて、静かにグラスを磨いてる。
前にも夢で会ったことのあるひと。
顔はよくわからなかったけど、前も、その前の時もそうだったから、それでわかった。白い、ぼんやりしたひと。前の前の時には卵みたいなものをくれて、前の時には、グラス——
あ。あたし、グラス、持って帰っちゃったんだっけ！
変だよね。
夢の中で手に持ってたグラス、そのまま、一輛だけの地下鉄の中に持って帰っちゃうなんて。夢と現実は違うって、Aはよく言ってるのに、グラスは確かにあって。
どうしよう。今あたし、グラス持ってないよ？
泥棒？
あたし、泥棒したことになるのかな。
『いらっしゃいませ』
英語みたいな、グニャグニャって響く声。
白い服のひとの声。
あたしは慌てて、どうしようって思いながら、でもちゃんと言わなきゃって思いながら、前にきた時にグラスを持って帰ったことを白い服のひとに言った。ごめんなさい、って。前の時みたいに変な風に喋らないように、ちゃんと言わなきゃと気を付けて。
「ごめにゃさい」
あー、もう！　また！
舌がちゃんと回らなくて、変な発音になって……。
そしたら、白いひとは首を振って。
『あれは私が貴方にお持ちいただいたもの。どうかお納めくださいませ、新たなるものよ。あれは、我らイリジアのものどもからの、ささやかなる祝杯です』
「？」
イリジア、って前にも聞いた。
前にここの夢を見た時に会った男のひとから。黒い髪で、黒い瞳の、オリエントな感じの、すごい綺麗な女のひとと一緒にいたひと。お酒飲んでた、赤い髪のひと。
ええっと、確か……。

『あまり聞き取らないほうがいい。
イリジアのお歴々の声は、あまり心地良いものでもない』
『あら。随分と失礼な物言いをするのね』
『だが、事実だよ。
それが証拠にヒュプノスも良い顔をしていない』
『こんなこと言われてるわよ、マスター？』

あのふたり。こんな風に話していたんだっけ。
ふたり隣合って座ってて、そうして並んだふたりはすごく似合ってて、そういう風に描かれた絵みたいに……しっくり？　うん、しっくりくる感じだったから、ああ、きっと、恋人同士なのかな。ってあたしは思ったんだよ。
うん。覚えてる。あたし、ちゃんと覚えてる。
でも、あの時も「イリジア」が何なのかはわからなかった。
うん。聞いてみようかな？
「イリジアって、何？」
『いずれわかることもあるでしょう。
今は、ご注文をお伺いしましょうか』
「あ、そっか」
そうだよ。そうだね。
ここって、お店なんだもの。
前の時は冷や汗かいて、困って、恥ずかしくて、顔熱くなっちゃって大変だった……。でも、今は、二回目だし。あたしはちゃんと言える。前は言えなかったことが、言える。
「あたし、お金とか、持ってないよ」
そう。お金！
あたしにかたちをくれた"あのひと"の、名前、今は思い出せないままの彼女の記憶が、多分こうして、あたしの知らないことを教えてくれる。お店っていうのは、お金で品物を買うところ。あたしは本物のお店をよく知らなくて、だから、初めて夢でここに来た時には困って、困って。
でも、二回目だから！
ちゃんと言えた。
前はちゃんと言えなかったこと、言えたんだ。
ちょっと胸張って、堂々と。
「お金ないから、帰るね」
『お代は結構。ここは、我、ヒュプノスの領域たる諸柱の酒場（バール）。通貨の概念はなく、ただ、私がお客さまへと振る舞い酒をお渡しするのみ』
「？」
『お金は必要ありません』



「そうなんだ」

じゃあ——

あたしは頷いて、前に出してもらった甘い味の金色のお酒をちょうだいと言って、白い服のひとが頷いて、ようやくあたしがこのひとの顔の上半分が鳥みたいな（前に事典で見た蝶に一番似てるかも）お面に隠されてることと、片目を閉じてることに気付いて——

それから。

そのすぐ後に、３人がここへやって来た。

ドアを開けたひとたち。

人影のようなものが、みっつ。どれも女のひとだった。胸とか大きくて腰とかすごい細くて綺麗な姿の女のひと、すてきな帽子を被った女のひと、あと、あたしと同じくらいの背丈の女の子。

みんな綺麗。

ミリアや“あのひと”みたいに胸の大きな美人がひとりと、ほっそりした帽子の美人と、可愛い女の子。

でも、顔がないね？

顔がないけど、美人だし、可愛いって伝わる。

顔、鉄（メタル）なのかなと思いかけたけど。違う！

機械みたいな顔してる、けど。

黒い体。

真っ黒。

Ａの肌よりずっとずっと黒い、インクや影みたいな色。

——見覚えのある３人だった。

——あたし、紫色の地下世界できみたちに会った！

『やだ、どうして人間もどきがこんなところにいるの。
ひとりじゃ何にもできない役立たずのストレンジャー。えぇと、名前はリリィ、だっけ？』

『あら、あら、偉いわ。ひとりでお出掛けしてきたのね。保護者の彼は一緒じゃないのかしら。お遣い？　偉いわ、リリィ』

『あなたみたいな子がひとりで来るところじゃないと思うのだけど、良いわ。折角だから、四人で楽しんでも良くてよ？』

「……！」

きみたち、地下世界の、神さまの——！

（つづく）

九星時報

第3回 ☆☆☆

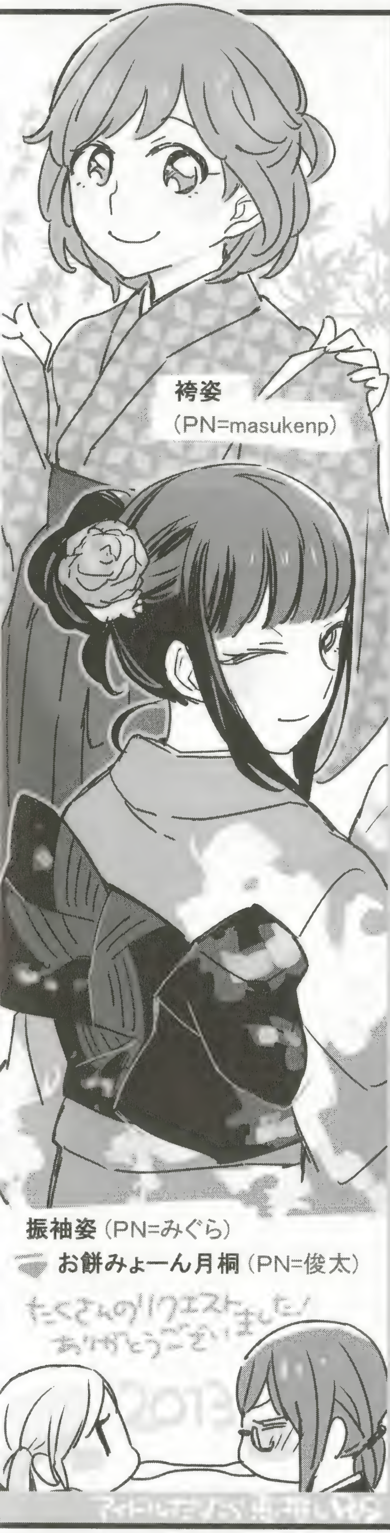


クラシカルメイド
（PN=かいむなつき
PN=なぎまり）

モコモコ冬服
（PN=ニコ
PN=カナエ一号）

アイドル服
（PN=サハラ）

ギャップ萌え
サチさん
（PN=Tagosaku）



袴姿
(PN=masukenp)

振袖姿 (PN=みぐら)

お餅みょーん月桐 (PN=俊太)

ユリトピア!　今回も沢山の投稿有り難うございます。更なる増ページも可能だけど、今回はちょっと抑えめでいかしてもらいます。では一通目。

■PN=ナカ　会員番号=2635

パジャマ桐を見て皆でパジャマパーティとか楽しそう&和みそうだなと思いました。月代ちゃんは一応監督役だけど一緒にガールズトークに花咲かせてると良いなと妄想。あ、でも修学旅行では学年別ですけど似たような状況になりますね。それぞれの修学旅行の様子も知りたいです。

桐「修学旅行楽しかったよー。私は動物園ルート!」
月代「楽しかったね」
桐「シロクマと月代ちゃん、狼と月代ちゃん、ペンギンの真似する月代ちゃん!　ぬいぐるみを選ぶ月代ちゃんっ!!!」
月代「桐、その辺で」
桐「えー、まだイクラ丼キラキラ月代ちゃんとかもあるけど、まあ語り尽くせないよね。スペース的に」
月代「そうね。まとめて話す機会を作りましょう。お楽しみに!」

■PN=雪あとむ　会員番号=3229

オーケー、みんな可愛い。それはそうとショーパンにはレギンスがマストだと思うの。音七ちゃんぺろぺろ

音七「……これ、なんか答えなきゃいけない?」
茉莉「そうだよねっ!」
音七「!?」
茉莉「活動的かつボディラインもしっかりキープ。素早い系女子はパンレギと仲良し、でもって休日に見せるガーリィーなファッション。女子って捨てるとこないと思わない?」
音七「いや、判んないです」

■PN=うえる　会員番号=3986

結奈ねぇと比奈ちゃんは休日はお外でデート派ですか?　それとも家でまったりイチャイチャ派ですか?　どうなんですか結奈ねぇ!?

比奈「膝枕する」
結奈「比奈っ。えっと、一緒に出かけるよりは家でボーっとしてるかな」
比奈「ん、腕枕もする。あと、だ……」
結奈「わー!　比奈ストップ!　次の投稿行こうか!」

■PN=もっち　会員番号=4019

結奈さんは、これは失敗したなーという料理を作ってしまった思い出はありますか?

結奈「親戚の集まりでやった揚げ物かな。油の温度調節に失敗。量をこなそうとして焦ったのが原因」
比奈「あー」
結奈「お陰で大人数料理の心構えを勉強できたけど……ちょっとへこんだかな」

■PN=Tagosaku　会員番号=3987

百合霊のお二人へ。デートするなら、どこに行ってみたいですか?

サチ「あみゅーずめんとぱーく!」
恵「行きたいですね。絶叫マシーンとか乗ってみたーい!」
結奈「飛んだりできるんだから、マシーン必要ないんじゃ」
サチ「お化け屋敷でキャーってのも憧れるわ」
恵「お化け怖いっ。守って!　サチさん」
結奈(つっこんだら負けな流れだ……)
サチ「二人なら大丈夫よ、恵」
結奈「はいはい。では阿野へのお便りです」
サチ&恵「えー」

■PN=メンタン　会員番号=4024

阿野ちゃんのオタクライフが知りたいです。絵とかも描けるのかな?

阿野「ゲームしたりアニメみたり普通だと思うよ～」
桐「絵描くよね」
阿野「あ、うん。少し、ちょっとだけね……って見せたことあった?」
桐「シロカワ情報網をなめちゃいけない。カッコいい絵描くよね」
阿野「あはははー…えっと、桐さん」
桐「安心してシロカワ会はカワイイものを見守るだけだから。でも今度、本頂戴?」
阿野「か、考えとく」

次回は百合霊さん発売から一周年過ぎ頃!　このスペシャルな回に向けて、イラストリクエスト・各キャラへの質問・妄想・自作イラストなどの投稿、お待ちしております。では最後の投稿をお届けしつつ、また次回!

■PN=すなめり　会員番号=3567

次のファンディスクでは「普通の人」である城女の皆さんがチクタクマンや復讐鬼といったアレな人達を共演するのかと思うと、不安で胸が高鳴ります。

サチ&恵「普通じゃない私達がいるから大丈夫!」

尾張国那古野城――

織田三郎信長は侍の嫡子にもかかわらず野良着を好み、同年代の百姓の子供らに混ざって遊び回っていた。この日も河原遊びを堪能した信長は、父の帰城を知るなり父信秀の居間へと駆け込んできた。

「親父殿、ご覧ください！　うまそうな柿を取って参りました！」

目を輝かせながら懐から柿を取り出す。

同席していた信秀家臣柴田勝家は、

（相も変わらず野良遊びとは）

呆れもしたが根が真面目なせいか表情に出す真似はしない。

「あ、勝家の分もあるぞ♪」

笑顔で柿をもう一つ出す信長。

「いえ、いりませぬ」

「勝家は柿が嫌いか？　では何が好きなのだ？　こんど取ってくるぞ」

勝家とは対照的に信長は喜怒哀楽を隠さない少年である。勝家に断られたのが寂しかったのか、肩を落として今にも泣き出しそうな顔になった。

「うまそうな柿だな」

「はい！　おいしゅうございました！」

父の笑顔を見て、途端に信長の表情が晴れる。

「どこで取ってきた」

河原遊びの帰り道、カラスが柿の実をついばんでいたのを目撃したのである。

「で、カラスにくれてやるくらいなら人間様がおいしく頂くべきと思い、追い払い、もらってまいりました！」

「ほう、貰って参ったのか」

「はい！　信行にも分けてあげました！」

信行とは信長の弟で病弱ながらも聡明な少年である。

「若は織田家の嫡子でありますぞ。いつまで悪ガキ気取りでおられるのか」

「でも、カラスにくれてやるには惜しいほどの柿であろう」

赤味を帯びた柿を見ると勝家も、

（確かに旨そうである）

思いはするが、言う訳にはいかない。

「戦乱続く今の世をこの織田家が生きるには尾張全土を治めるしかなしと存じる。主家斯波家、あるいは織田本家との争いも起きましょう！　いつまでも遊んではおられませぬぞ！！」

信長が今のままでは戦乱に飲まれ、近隣大名に併呑され陪臣の身がさらに格下げとなる憂き目に遭うとも限らない。それならば討ち死にを望む勝家であるが、君主の無能のせいで無駄死には出来ない。

「まあ落ち着け、勝家」

信秀は勝家が不機嫌そうに口を結ぶのを確認してから信長へ笑顔を向ける。

「して三郎、どこの柿を貰ってきた。地主に礼を申しに行かねばならぬ故な」

信長の表情が固まった。

柿は道端の木からもいできた物だが、信秀の領内とはいえ庄屋の敷地であった。

「さては断りもなしにもいできおったか」

信秀は笑みを浮かべたまま手招きする。応じた信長が信秀の前へと座り直すと拳骨が飛んできた。

「領民の敷地から勝手に柿を取ってくるとは何事か。領民あっての侍である」

「でもカラスが……」

と泣きながら反論する信長であったが、

「余人の前で『でも』などとみっともない言い訳はするな。己が正しいと思うのならば黙って貫くか、論をもって相手を説き伏せよ。それが出来ぬのなら素直に頭を下げよ」

「ごめんなさい！」

大声を張り上げた信長はすっくと起ち上がり、

「これから庄屋の屋敷へ行って詫びてまいります！」

信秀が声を掛けるよりも早く居間から駆け出していった。

信秀は勝家を見て、

「あれが織田家を継いでは東海の今川や美濃の斎藤に飲まれてしまいそうだな」

勝家の思いを代弁した。

（素直なのはよいが……若は生まれた時期が悪かった）

侍であれ農家であれ、素直なだけでは生き残れない時代である。

「されどな勝家。三郎は物の正邪を見る目は確かである。あとは己の正を自覚するのみよ。それが出来ぬようであれば、尾張は終わり」

と一人で高笑いする信秀。

「笑い事ではありませぬ。若が自覚なされる時まで誰も待っては下さりますまい。……聡明な信行様を跡継ぎと定め、然るべくお育てなさるべきではありませぬか？」

織田家中、あるいは親族一同にも共通した思いであった。何より勝家は信行の後見役でもある。余計に信行を贔屓目で見てしまう。

「この家……あるいは尾張を保つだけであれば信行が良し。然れども織田家の名を轟かせんとするならば三郎しかおらぬ」

「……殿は子らにお優しいですな。前に会った女児も然り」

皮肉であったが、信秀はそう知りながらも怒らずに答えた。

「当然よ。次の世を担うは子ら故な」

信長を擁護していた信秀であったが、数年後、流行病であっけなく他界し、その葬儀を境に家中の雰囲気はガラリと変わった。

信長は葬儀の際、悲しみの余り信秀の位牌に灰を投げつけ、さっさと出て行ってしまっていた。ところが家中で信長の奇行を諫める者はおらず、それどころか、

「殿のお気持ちは痛いほどに分かりますぞ」

と信長に同調する者ばかりであった。信秀存命中は、微に入り細に入り信長の行動に眉をひそめる者も多かったのにである。

快活だった信長が表情を失ったのはこの頃からである。発する言葉は短くなり、返事も一言だけになる。

それでも家中では「当主らしい威厳が備わりましたな」と信長を褒めそやすばかり。

ただ一人、信長を褒めも諫めもせず、距離を置いて様子をうかがっている老人がいた。

（やれやれ、どうにもならぬわ）

その名を平手政秀。

信秀が己の右腕として外交に当たらせ、信長誕生からは傅役に定め、織田家家老に任命した男である。

齢六十になろうという老人であるが、一線を退いた今でも発言力は大きく織田一門も無視はできない。

政秀は信長が浮かべた一瞬の憂鬱を見逃さず、自らの屋敷へ戻ると何処かへ使者を走らせた。

美濃国稲葉山城――

美濃国主斎藤道三は政秀の訪問を、

「やっと僕の下に来る決心をしていただけましたか」

両腕を広げて喜んだ。

「政秀殿といえば織田家きっての外交上手。教養もあり経験も豊富。これで美濃の運営も楽になりそうです」

「早合点召されては困りますな。拙者が参ったは織田家と斎藤家の間を取り持つため故」

「信秀殿亡き後、織田家では信長殿と信行殿とで跡目争いが起きていると伺ってますけどね。その隙を突いて僕が尾張へ攻めかかる前

に当家へ鞍替えしようと思ったんじゃ……」
「違いますわい」
「それは残念だなぁ」
道三は手の上でキセルを回すと、雁首を突きつけた。
「なら用はない、かな。日を改めて尾張をいただきに行きますよ」
「亡き信秀様の美濃攻めを返り討ちにした故、一目置かせていただいておりましたが……道三様も余人同様、たわけ者でいらっしゃったか」
「あー、そういうの通じないから。僕を怒らせて優位に話しを運ぶつもりですよね？ 面倒だから単刀直入に頼みます」
「ならば――」
政秀は脇差しを抜いて前へ置くと、懐を大きく開く。
「御息女、帰蝶殿を信長様の嫁に頂きたく」
「だからさぁ、断られたら腹を切るとか……そういうのはやめにしません？」
道三は煙管を戻すと、刻んだ葉煙草を丸めて雁首に押し込み、
「信長の器量は分かりませんけどね、うつけ者と伝え聞いています。うつけが当主となれば家中で乱が起きる。実力行使で尾張を手に入れられる僕に娘をくれてやる理由が見つかりませんよ」
火を付ける。煙を一吹きすると、
「政秀殿も一服いかがです？」
煙管を差し出した。
「頂戴仕る」
織田家の外交役として京、大坂にも出向く政秀だけに、煙草も初めてではなかった。咳き込むことなく一服する。
「若様はうつけにあらず」
「うつけという噂自体が問題でしょう。人は真の実力なんかより、噂に流されるものです。見えない実力では家中をまとめられませんよね」
「流石は美濃の蝮様」
と政秀は破顔し、煙管を返す。
「有り難う御座いました。……はてさて、実のところ道三様のお見立て通り、織田家は瓦解の危機でありまして」
「帰蝶と結婚すれば僕が信長の後ろ盾になるから反信長派も易々とは手を出せないわけだ」
「御明察のとおり」
「でもそれって織田家の、それも信長派の事情であって、僕には何の得もないんじゃないかな？」
「婚儀が成った暁には、織田家が尾張に居座り、今川を東海から上らせはしませぬ」
東海一の弓取りと渾名される今川義元は英邁の評判高く、その師である太原雪斎は信長の庶兄・信広を捕らえる程の戦上手である。
義元は公家風を好み、いまは甲斐国の武田家や相模国の北条家と覇権を争っているが、上洛を視野に入れているとの噂もあった。
（今川がすぐに上洛を始められるわけもないが）
尾張以東を織田家に任せれば、道三が西――つまりは京へ目を向けることも可能になる。
「信長は今川義元を凌ぐ器と？」
「一度、お会いいただければご理解いただけましょう」
「ふうん……悪い話ではありませんが、そうなれば信長がうつけどころか、並の武将であっても、僕が足を引っ張られるだけになりますよ」
「ご覧頂ければ拙者の言葉を信じていただけます」
「それが早そうですね。では婚儀の話はその時にでも改めて」
「有り難し」
「いえいえ。……そうだ。面白い話を持って来てもらったので僕も面白い話をひとつ」
「はて」
「火縄銃という武器がありましてね」
「南蛮渡りのですな。先代信秀様から伺った事があります」
「流石に知ってましたか。畿内では興味を持っている大名も多いようで――」
道三は煙管を火縄銃に見立てて構え、
「これからの戦では役に立つでしょうね」
撃つ仕草をしてみせた。

尾張国正徳寺――
信長は会談場所の正徳寺まで槍兵五百、そして弓、鉄砲合わせて五百、総計一千の兵を率いてやって来ていた。馬上の信長は野良着で、柿を齧っては種を吹き散らかしながら。
当然、この奇行を止める家臣はいない。
「流石は信長様！」
無闇矢鱈と褒めそやし、内心、
（もっとやれ。さすれば信行様を推す声も増えるというものよ）
数を増しつつある反信長派の誰もがほくそ笑んでいた。
正徳寺に着いた信長は正装に着替え、道三の前へまかり出た。
朗らかな道三に対し、信長の顔に表情はない。
「これはこれは信長殿。大層な兵を率いて来たみたいだね。鉄砲は二百くらいかな……あれで全部だよね？」
信長の背筋に冷たい物が走る。それは恐怖であると同時に、どこか懐かしい感覚であった。
「ちょっとこっちに来てくれないかな」
膝を進める信長。
「もうちょっと。もうちょっとこっち」
信長は不安と嬉しさを感じながら、さらに膝を進める。
ゴン、と一発、道三は信長の頭を拳骨で張り飛ばした。
「ぐぁっ！」
信長の叫びを襖越しに聞いた織田家家臣達は腰の刀に手を掛けながら起ち上がる。
「皆、待て」
制したのは政秀であった。政秀は一言間違えれば命を失う外交の席を幾度となく乗り越えてきた。そんな老人の厳しい視線を浴びては若い侍達は息を飲むしかない。
「まだ待て」
政秀は襖へと耳をそばだてる。
「信長君さぁ、ダメだよね？」
道三の声を聞いた政秀は破顔し、
「もう皆、下がるべし」
控えていた織田斎藤両家の家臣を引き連れて外へと出て行った。
「いいかな。どんなに良い物を持っていても、使い方を間違ったら張り子の虎にしかならないよ」
仮にも対等な面談であり、婚儀をまとめようという席である。警戒は必要であるが、過剰な動員は無駄金にしかならない。そして火縄銃である。示威行為であれば百もあれば充分で手の内全てを明かす必要はないというのだ。
黙って聞いていた信長であったが、次第に目に涙が貯まってくる。
「道三殿……儂を叱ってくれたのは親父殿以来……道三殿が久しぶりですぞ……」
「まあ遠からず義父になるわけだし、言うことは言っておかないとね」
「道三殿……これよりはオヤジ殿と呼んでもよろしいですかな……？」
「ま、まぁいいけど……」
「オヤジ殿ーー！！」
道三の胸に飛びついて泣きじゃくる信長。
「家中の者は皆、儂が正しいと思うことをしても、間違ったと思うことをしても、同じような笑顔で褒めて……儂は誰も信じられず……やっと信じられる……信じられるオヤジ

殿に……」
「よしよし」
道三は頭を撫でてやるが、涙と鼻水が糸を引く様が気になって仕方が無い。
（とはいっても突き放すわけにもいかないよねぇ）
安くはない正装を汚されて不愉快である。不愉快であるが、嬉しくもある。
（義龍もこれくらい腹を割って話してくれれば……）
斎藤義龍は道三の嫡子であるが、美濃国内の誰よりも父を嫌っていた。道三は出来れば手ずから教育し、一人前の国主にしてやりたいが義龍の方がそれを拒んでいる。
一時期、妻子を捨てて家を出ていた道三に非があるのだけに、道三も引け目を感じて義龍に強く出られずにいた。
（信長の面倒を見てやるのも悪くはない、かな）

政秀は信長を送り出すと、
「道三様、有り難う御座いました」
深々と頭を下げた。
「言っていた通りでしたね。確かに、会って分かりました」
「信長様だけは噂だけでは分からぬお方」
「政秀殿の口添えで用意出来る火縄銃は精々十丁……信長君が乗り気になっても五十いけば大したものだと思っていたんですけどね。まさかあんなに揃えてくるとは」
「信長様の器にて」
火縄銃の有用性を認識出来るだけではない。それを大量に揃えられる財力と、大金を投じられる思い切りのよさは余人が持とうとしても得られぬものである。
「本当に、ね」
「しかしこれで信秀様への面目も立ちまする。ここだけの話、織田家などどうなろうと構わぬのです」
「ははは。剣呑な物言いですね。聞かなかった事にしてもいいですか？」
「いえ、是非にでも聞いて頂きたきたく」
「婿にする以上は一蓮托生、ですか」
「然様な強迫紛いな事ではありませぬ。拙者は信秀様から信長様を託された身。故に織田家の行く末より信長様の方が心配でしてな。信秀様だけは裏切れませぬ故」
「信長君が生き易ければ良い、と」
「その通り」
「僕が後ろ盾になるから反信長派も少しは大人しくなるだろうけど、根本的な解決にはならないでしょうね」
「信長様には素質があります。道三様が信秀様に代わる良き師となってくだされば、あとは信長様が己の生きる道を切り開きましょう」
道三は顔の半分を隠すように額に指を添えた。
「自分の前に立ちはだかるなら一門衆どころか弟すら殺せ……と僕の口から言わせる気ですか」
信長が織田家の頭領として生きるには火種となる弟を取り除き、反対派を力でねじ伏せるしかない。実力を示し、場合に応じて行使してこそ活路が見えるのだ。
「必要があればお頼み申し上げます」
これが道三が政秀と会った最後となる。
尾張へ戻った政秀は程なくして自刃。

美濃国稲葉山城――
濃尾平野北部に突き出た稲葉山からの風景は壮大で、北側の麓を見れば長良川、南側を眺めれば木曽川が流れている。どちらも川幅が広く、物流によって美濃を富ませる反面、一度荒れると田畑を飲み込む暴れ川でもある。
道三は山頂の館で若侍の報告を聞いていたが、いつしか木曽川を眺めながらその向こうの尾張を思っていた。
（平手の爺さんめ。信秀殿の手前、自分の口からは信秀殿の子供同士を殺し合わせるようなことは最後まで言えなかったか）
平手政秀の自刃は、奇行をやめない信長を諫めるためとも、信行派との政争の末とも噂されている。
しかし道三には分かっていた。
（政秀殿が言わなかったのなら、僕が信長君に言うしかないじゃないか）
政秀は、道三に重荷を肩代わりさせたのだ。
（信長、か……彼がしっかりしてくれれば僕は安心して西へ向かえるんだけど、こればっかりはどうなることやら）
道三は前守護職の土岐家を追い出して後釜に座っただけに、領内の豪族や庄屋の中には下克上の事実を引き合いに出し、優遇しなければ協力しないと言い出す者もいる。
水利争いなどは領内の村と村の対立だけに、不用意に片方を優遇しては禍根を残してしまう。豪族にしても同様で、有能だからと登用しても他家の者から苦情や嫌味を言われる始末。
（もう少し楽に治められると思っていたんだけどなぁ）
裏切りや騙し討ちなどは覚悟の上だったが、いざ上に立ってしまうと家臣領民の不満解消にばかり労力を費やす日々である。
（西へ進めるのはいつになることやら）
旧友の顔が浮かぶ。
（案外、僕じゃなくて信長がヒデを助けに上洛するのかもね）
油の行商人として切磋琢磨していた松永久秀も今では三好家の重鎮として京の代官を務めている。
（ヒデも大変だろうし、僕ももっと頑張らないとな）
「……殿っ？」
「あっ」
と我に返った道三。
「ごめんごめん」
「如何なされました？」
「ちょっと考え事をしてて」
「殿でも其の様な事があるのですね」
若侍は弾けるような笑い声をあげた。
「そんなに可笑しいかなぁ。僕だってそういうときくらいあるよ」
「これは失礼致しました」
言うものの、若侍は笑顔を捨てない。
「ただ、巷では蝮と呼ばれる殿も私と同じ人だと思うと嬉しくて」
「ひどい言われようだなぁ。まあいいや。笑っていられるのは平穏の証でもあるからね。そういえば奥さんとはうまくいってる？」
「え……」
若侍は口ごもるが、俯き、はにかむ姿を見れば、
「ああ、分かったわかった。もういいよ」
円満なのが伝わってくる。
「今日はもういいよ。自分の城に帰って奥さんと仲良くして」
「それはよくありません。せめて報告だけはさせて頂きます」
「急ぐ話でもないし、帰っていいってば」
「いいえ、いけません」
「光秀君は生真面目すぎるよ。もう少し気楽にいかないと奥さんも息苦しいんじゃないかな？」
「この性格のお陰で殿から頂いた火縄銃も自在に操れるようになりました。それに妻は今のままの私が一番だと言ってくれています」
「ほうほう！」



「あっ！　……い、いまのは！」
「では主君として命じさせてもらうけど……明智家当主として跡継ぎ作りに励んでくれないかな。明智家の安泰は僕の安泰でもあるわけだしね」

後年。
斎藤道三は実子義龍の謀反に遭い戦死。道三方についた明智光秀は居城明智城を攻め落とされて流浪の身となる。
織田信長は舅道三を救う為に兵を繰り出したが間に合わなかった。
信長が道三の後ろ盾を失った事で信行派が表立って活動を開始。ついには互いに兵を繰り出しての争いとなる。
戦は信長有利に進んだが、信長と信行の実母土田御前の仲介により和睦。双方の派閥に禍根を残す。
ただ信行個人としては、
（やはり私は当主の器ではない。兄上を支えて織田家を盛り立てていければ……）
と強い想いがある。そもそも信長に対しては恨みなどなく、むしろ親愛の情を抱いていた。それでも『奇異な振る舞いばかりの信長様では織田家は守れませぬ』と家臣に言われ、母の後押しも受けてしまうと立たざるを得なかったのだ。
（母上は兄上を邪魔者と忌み嫌っておられたが、織田家にとっての邪魔者は私ではあるまいか）
信行が苦悩する中、信長が病に倒れたとの報せが届き、清洲城へ見舞いに向かった。

清洲城――
信長は刀を振り、刀身に残る信行の血を払い飛ばした。
「これしかなかったのですな、オヤジ殿」
仮病で伏せていた信長は近づいて来た信行を刺殺。
「信行と共に食った柿……旨かったのぅ」
表情はなく、声にも抑揚がない。
信長は信行と共に自らの心も殺したのであった。

～終わり～

星継駅擾乱譚

アステライトじょうらんたん

———闇中列車行———

　大陸を渡る列車の、深更の荒野を往く震動が、低く鬱屈と陰にくぐもって、客席をさながら弔いの廟堂のように静まらせていた。貧しい、だがそれ故に生命力に溢れ、日頃なら喧噪と人いきれに満たされている筈の三等の客席にしては、居合わせた乗客達は皆一様に寡黙で、項垂れてただ、忍びやかな震動に身を任せているのみ。その衣装も形に幾らかの差はあれど、黒か灰色の地味な色合いばかりで、それもまた野辺の送りとか暗鬱な儀式を思わせる。静まり返った車輛の中、そこだけ典雅な美術品を切り取ってきて嵌めこんだかに見せている、少女が一人。軍か、警察組織に属していると思しき制服姿なのだが、その意匠は式典時の礼服か、あるいは儀典を司る官衙にあることを物語って優美だった。大人びた物腰の少女ではあったが、最前よりその視線はちらりちらりと周囲の客席と、乗客達に投げられて、どうにも落ち着かなさげな、廻りの秘やかな風情の中で少しく浮き上がって見える。

　後で一つに括って垂らした髪を僅かに揺らしながら、身を乗り出して相席の男の肩口を、そっと指先でつついた。木の窓枠に肘をついてうたた寝していた男がのんびりと瞼を開ければ、現れた眸は青く、澄み渡って、ある種の道に通じた者特有の風格と、同時に皮肉げな諧謔の光を宿している。骨相も、単の着物に着崩した袴というなりも、男が遙か東の遙か東の島国の産である事を示しているのに眸だけ不思議に青い。眠りを破られ、生欠伸漏らしつつも気を悪くした風もなく、青い眸で目問いしてくる男に、少女は、

「もし……貴方はどちらまで行かれるご予定でして？　私は甘夏省の景光河という大河の北にある、第一衝合駅まで向かっている途中なのですけれど」

　……真に問いたいのがそんな事ではない内心が、語りかける間にもちらほらと周囲に目が逸れている事からも漂う。

「きさらぎ駅、だな」

「は？」

　ざっと頭に繰り描いた停車予定駅中の、どこにも見当たらない駅名に少女がやや戸惑ってみせると。

「いや戯言さ。気にすんない。俺ァ別に、どこへと定まった道中じゃあねえのだ。この汽車にもたまたま乗り合わせただけでよ。そんな事より嬢ちゃんな」

　そこで唇の端を吊り上げて見せた、頬笑みはどこか人を食った風があり、またも少女を落ち着かない心地にさせたのだが。

「嬢ちゃんが言いてぇのは、そういう下らんごとじゃあねえのだろ。たとえば、そら、他の客共がどうにも妙てけれんだ、とか」

「……気づいていらしたのね」

　少女は声を潜めていたし、男も伝法な物言いではあったが別に大声にがなりたてていたわけではない、のに、二人の会話は車輛に広く響くのではないかと疑わしくなるくらい、客席は森閑として。少女はこれだけのやり取りにも、廻りの目を引いてしまったのではと憚ったのだけれど、他の客達は変わらず無言で項垂れたきり。そこにある静けさは、深更の、眠りに覆われて安閑とした、という態よりも、むしろ墓場のそれに近しく。

「こりゃあなるほど、嬢ちゃんにはちっとばかしぶるぶるもんだわの。何しろこいつら全員、もうくたばって———」

「え。ちょっと。お待ちを、お待ち下さいましな」

　青い眸の男が飄々とした薄笑いを貼りつけたまま、ぶちまけたのに少女、大いに慌てて遮ったのは、彼の言葉にただ驚いたと言うより、彼女自身心得ていながら敢えて口にはしておらなんだ、という風がある。

「なんでえ、んな別にひそひそ口で憚る事もあんめぇが。いいじゃねえか、死人が汽車ぽっぽに乗ったってよ」

「だから……っ」

　この男に声を掛けたのは失敗ではなかったかと臍を噛みつなおも少女が遮ろうとした時。

『ほねつぼー……。ほねつぼー…………』

『お降りの方は、お忘れ物のなきよう……』

　気配もなく扉口に現れていた車掌が、またこれも陰々滅々とした声音だった。告げた停車駅の名は、これも少女には覚えがなく、そして列車は制動を掛けたとも見えなかったのに、いつの間にか止まってある。思わず息を呑んだ少女の周囲で、客達は一斉に立ち上がり、端から順序よく、といえば大人しい、皆項垂れたまま一切口を聞かず、扉口から流れだしていったのはもう、不気味の一言に尽きた。

「こんな駅……路線図のどこにもなかったのだわ。駅の様子もなんだか奇妙、まさか私達、呪陣に捕らわれて……？」

　車窓から伺えば、駅の様子は、ホームと待合いにそれぞれ一つずつしか灯りが見えないというにしても、奇妙なまでに不鮮明で、まるで目の詰んだ紗を掛けたような。列車から離れ、黙々と改札に吸いこまれていく客の列を目で追おうとしても判然とせぬ。焦れて少女は、

「……汽車もしばらくは停まったままのよう。私、ちょっと駅を見てきます」

「お前が降りる駅というのでもあるめえが。大人にしてろよ」

「大丈夫。何かの術であったとしても、私にも備えがありましてよ」

結い髪とスカートの裾をたなびかせ、乗降口へ向かう少女を、青い眸の男は苦笑いで見送った。

◆　◆　◆

「ほんで？」

青い眸の男は、智里、とただそれだけを名乗った。戻ってきた少女は、どうにも納得がいかぬげな、そしてどこか嘘寒げな様子で己をかき抱き、

「ちょっとも経っていないのに。他に落ち着くところなんてないのに。待合いにもホオムにも、もう誰もいなくって。駅の外も、視界が利かないの……」

「死人共の行く先なんざ、気にするものでもねえ。好きに逝かせてやりゃあいいのだ」

「術も、呪力の気配も感じられなかったのよ、なのに、こんな……」

少女は、彼女が属する組織でも稀な呪術方程式の遣い手であり、よほどの事態でも対処は可能との自負があって、しかしそれを揺るがされ、困惑しきり。少女が戻ってきたのに合わせ、列車はまた動き出した、が、それ以降も少女はさながら悪夢に迷いこんだにも似た一夜を送る事になった。

たとえば他の客は全員降車したはずが、また車内は別の者達で満たされてあり、それが全て猿であったり、とか。

あるいは車外の闇に、鏡となった車窓に映る自分の顔が、いつの間にか数百年もの時を経た木乃伊のように萎びきっていたりもした。少女がひどく混乱して顔をまさぐってみれば、なにも変化はなく、ただ窓の木乃伊の顔が意地悪く笑ったり、とか。

他にも、車内の灯りがふっと落ちて漆のような闇が満ち、鼻を摘まれても判らぬくらいの漆黒の中、通路を水っぽい、聞き苦しい、人間からかけ離れた足音が横切っていったり、というのもあった。車輛の扉口から、黒目しかない双眸の、畳ほどもある巨大な顔が覗きこんでいたりとか、他にも色々、様々、阿片耽溺者の幻夢さながらの事態がひっきりなしに。その都度少女は呪式を発動させ、妖異を打ち破ろうとしたのだけれど、何故か彼女が頼りとする術法はいずれも不発と終わって。ぐったり消耗しきって椅子にもたれた少女の向かいで、ただ智里ばかりが泰然と、どこか興がる風に、その青い眸を炯々と光らせ少女を眺めていたという。やがて少女が智里の眸、その意味を記憶の中から蘇らせ、そして憤然となったという。

「貴方。智里様。何故今まで気づかなかったのかしら、私は。貴方のその眼、眼光。貴方の眸は浄眼でいらっしゃる。あらゆる視えざるものを見透し、あらゆる術を打ち破る水晶眼。貴方にそんなに見つめられていたなら、私の術だって……っ、……、……、どういう、おつもり？

破するべきはこの汽車に取り憑いた怪であって、私の呪式ではないでしょうに。それともこの汽車自体が、貴方の仕業であったり？」

相手が如何なる瞳力を持った者であろうと、気組みでは後れじと、錐でねじこむように睨みつけた少女へ、智里が見せたのは、親しげで人懐こい笑みだったというのが、また彼女の癇に触った事である。

「いやあ、嬢ちゃん、乗りこんだ時からえれえ肩肘張って、ぴんと座ってたろ。そのくせ胸の中は、ワクワクがとまらねえて風で、あっちこっち見回してよ。まるで汽車に乗ンのが初めてみてえに……だから、汽車の旅にちぃとばかり味付けをってな」

「やはり貴方が！」

「待て待て。嬢ちゃんの術についちゃ、確かに俺の悪戯なのだが、汽車がこうなのは、もとからだ。俺もお前も、たまさか、そういう時間帯のそういう汽車に乗り合わせた、てぇ事だぁな」

え、と少女は、再三車内を見回した。今はモノ達の影もなく、汽車は闇中の荒野を往くばかりであったけれど、明ける気配は何処にも見えず、夜はまだまだ長く続きそう。

「こっからは、もうちょっかいもかけねえさ。嬢ちゃんの術で、是非光明カクヤク、と願いてぇね……ちなみにこの俺も、汽車が何処に行くのかまでぁご存じないのだ」

「貴方……貴方という方は。貴方———最低の殿方ね」

この後どの様にして、少女、シラギク・A、中央から駅へ派遣されていく封印官が、彼女本来の行き先へと立ち戻る事ができたのか、それは、定かならず。

———闇中列車行・了———

おたよりのコーナー
LETTERS & POINTS

今回は４ｐ！　投稿コーナーですー。あ、やんばるです！　でも同人誌の紹介などもありますので、無駄にページをかけすぎないように、さくさく行きましょう！

○蒼天のセレナリア

『ぎゃー！　本編の爽やかさと逆の世界が…！　こういったものに慣れてしまっているコニーもある意味怖いです。広い世界観で見ればもっとモザイクっぽいものも潜んでそうですが、一番ソレ系にタフそうなのは誰かなぁとかちょっと気になります』
（0674カナエ一号）1+3p
「コニーは怖いんじゃないんですよ、偉いんですよ、ね、ね？　一番タフなのは…ラス・カサス…？」【桜井】

『前号からセレナリアの漫画が読めるのが嬉しいです。本編ではシリアスなカルベルティが、コミカルで面白かったです！　コニーの仕事を手伝うなんて、らーぶらーぶですね』（3084ニコ）1+3p
「護国卿さんのセレナリア漫画、わたしも大好きです…らーぶらぶですね♪」【桜井】

『カル君のアカンに盛大に笑わせて貰いました。コニーはこれを難なくこなすわけか…カッコイイな…。これからのカル君の活躍に期待します！』（3354グアゼ）1+3p
「アカンいいですよね、わたしもアッとなりましたっ。コニーは本当に偉い…偉いです…好き嫌いしない！」【桜井】

○漆黒のシャルノス



『まだ未クリアではありますがシャルノスの雰囲気がとても好きです。ですのでシャルノスでイラストを描かせて頂きました。シャルノスの世界感とメアリとMの関係性が表現できていれば良いのですが…。どうぞ宜しくお願い致します』
（4299しみち）1+3p
「茨の舞うどこかを落ちていくメアリ、そこに差し伸べられる手の主は…。美しい1枚をありがとうございます。どうかどうか、最後までお楽しみいただければ幸いです。ご感想お待ちしています（ソッ）」【桜井】

『ホームズさんの補佐をすることになって興奮するメアリさんが微笑ましく頬が緩みますが、いったいどんな事件に関わっていくのでしょう、わくわくします！　そしてそして髪をまとめたメアリさん可愛いです！　ツインテとかポニテとかも絶対似合うと確信しました。仲良し３人娘で髪の結いあいなんぞしたら良いと思います…可愛い…』（3106しの）1+3p
「色んな髪型のメアリ、見てみたいですよね。わたしもです――あっ、髪の結い合いはいいですね…（深く頷く）いい…」【桜井】

『！！！！！！　とうとうメアリさんが探偵助手としての記念すべき第一歩を…！　ミステリ好きとしては期待せざるをえませんゴロンゴロン。メアリさんはこのまま絵本とかそういう平和な物書きさんでいるのかなあと思っていたのですが、この事件でインスピレーションを得て史実通りに推理小説を書いちゃう可能性も出てきたので正直テンションが上りまくりです。事件そのものもとても楽しみですので早く…早く次回を！！！　あと髪を縛ったメアリさんがいつもより淑女な感じでとても素敵ですね！　髪留めザックからもらったんだ…へえ…』（2603かいむなつき）1+3p
「前回描かれた事件『這う男』のエピローグ部分はエンターブレインさま刊の『ジャイアニズムvol4』で書き下ろし小説として出しているのですが、いずれひとつの形に（事件そのものも記載しつつ）纏めたいと思っています。メアリも本編から２年進級してちょっと淑女に…あっ、髪留めはザックです」【桜井】

『ちょうど会報が届いた頃、「這う男」を読み返していたのでタイミングの良さにテンションが上がりました。それにしてもワトスン博士と同等の扱いとはメアリすごい…！髪を纏めた姿も大人っぽくて素敵な淑女然としてますね。でも何かあるとまた必死で走るんだろうなと思うと愛おしいです。ホームズ氏の補佐役として更に成長する姿を楽しみにしています』
（2635ナカ）1+3p
「シンクロニシティですね！　メアリ、走りますね…まず走るでしょうね…。いずれその姿をお届けしたいと思います～」【桜井】

○信天翁航海録

『シサムとキサラが金子目当てとはいえ人様の為になることをしている…！と素で驚きました（笑）　こういうこともあるんだなあとちょっとホッとしましたね。双子の周りはいつも騒々しいのが鉄板だったので新鮮です。いつもこんな穏やかだったらいいのに…と思いましたがそうはいかないのがあの双子所以たる所ですよね』
（2603かいむなつき）1+3p
「言われてみればあの双子が関わったにしては鉄火場も死傷者もなく、平穏な一幕で……いやいやいや、皆様感覚が麻痺してますよ!?　まあ双子にとっては、他人様の子作りを厭というほど聞かされて胸焼けくらいはあったかも知れません」【希】

『エルリック・サーガからインディジョーンズ、さらにモンハンを経ての蟲師とは……もう次に何がきてもおかしくないですね。というか、蟲師？　蟲というか、うーん、素敵ですけど、オチがひど、いや、すごいです。やっぱり双子のキャラがこう、引っ張っているのでしょうか？』
（3055葉芽根）1+3p
「ちなみに双子は、過去の販促物で彼のネズミの国にも行っています。他キャラになりますと、クロはノーチラス号に乗り合わせ、泪さんは獄門島に上陸し、密航者はコメット号に密航し、朔屋は謎のキノコ島に迷いこみ

……節操がないなあみんな」　　　　　【希】

『朔屋さんにしては何か反動も無くいい思いしてる……。少女性愛嗜好が無いだけで大分人間性が上がって見えるなぁと思いました』　　　　(3680竜宮) 1+3p

「確かに前回の朔屋はまだ駄目さ加減、大人しめで……いやいやいやいや、皆様感覚が麻痺してますが!?　アレ相当な、旅の恥はかき捨て、って奴ですよ？」　　　　【希】

○どすこい！女雪相撲

『モヒカンといったら「北○の拳のザコ」しか思いつかない私って一体…』
(1446ふ〜ちゃん) 1+3p

「それが普通です。ホッケーマスクといったらジェイソンかヒューマンガス様が思い浮かぶのも普通です」　　　　【岩清水】

○紫影のソナーニル

『PSPに移植おめでとうございます！　ずっとスチパン作品が移植しないかなと思っていたのですごくうれしいです。これでお友だちにも気軽に勧められます！　気になる要素がたくさんあるので今後の情報を楽しみにしています』
(3732なぎまり) 1+3p

「ありがとうございます！　PC版をプレイされた方もお楽しみいただけるように鋭意製作中ですっ。お友達にもぜひぜひ〜」
【桜井】

「ソナーニルPSP化について、多くの方からお祝いの言葉をいただきました。展開できるのも応援いただいたお陰です。本当にありがとうございますっ」　　　　【桜井】

『リリィに傘ってけっこう似合うと思います。曲がりが強くてふちにフリルとかレースとかがついたやつ。それを差して風に乗って飛んでいく景色が思い浮かびます。どうでしょうAさん実現できませんかね？』
(3229雷あとむ) 1+3p

「あ、傘！　確かに似合う気がします…フリル多めの…あっ、飛んじゃう、確かに飛んじゃいそうですね…」　　　　【桜井】
「危険だ」　　　　【A】

『リリィさんとAさんやエリシアさんとアランさん、その他、主要な登場人物のみなさんのお話はどれもとても素敵で、これからやあのときが気になるのですけど、脇役、背景好きな私としてはずっと気になっていることがあるので質問させていただきます。最新作『黄雷のガクトゥーン』の主人公テスラさんと同じくエジソン卿のライバルであったとされる進歩的投資家ミスター・シャイニーとはどのような人物なのでしょう？　どうやら結社の関係者らしく、ヴァイスハウプトさん曰く「餌食」でNYの大消失によって「哀れにも消え失せた」らしいのですが、詳細は不明。やっぱりファーストネームはアルバートなのかなぁとか、本性とか変身した後の姿とかがドロドロネバネバだったりするのかなぁとか、ついつい想像してしまいます。そんなシャイニーさん、消え失せちゃった以上、今後の出番はなさそうなんですが、どこかで少しでも触れることはあるのでしょうか？』
(3055葉芽根) 1+3p

「気付かれている…！　お見事です。ミスター・シャイニー。実は、割と重要な人物として設定しています。今後のシリーズにどうかご注目いただければ…いずれ、いずれ…」　　　　【桜井】

○花散峪山人考

『本当に智里さんはろくでもないですね。二人の情報を教えるだけならまだしも、後始末とか……。けど二人の幸せな時間は「曾祖母」の中で生きてたんですね。その夢を支えに人生を紡いできたひいおばあさまはとても素敵な人だと思います』
(2635ナカ) 1+3p

「浸る事ができる夢や追憶を持っているというのは、間違いなく一つの幸せなのでしょう。老境にあってはなおの事。智里がろくでもなく最低なのは、まあいつもの役回りですが、今回は特に要らん事しぃでした」　　　　【希】

『読み進めていくと、何かひっかかるなあと思いつつも最後の最後で腑に落ちました。カタルシス！　在りし日の初美さんも、ああ……！　本編を経てくると感慨もひとしおです。洋装も素敵でした！』
(3084ニコ) 1+3p

「山人考の外伝は、失われし過去が現代に蘇るような仕掛けを組んでいますが、今回も楽しんでいただけたら幸いです。なお初美の登場は、原画の酔花様のリクエストでした」　　　　【希】

○平グモちゃん

『ハレルヤ！　愛こそすべて。愛があれば悪久ちゃんが主人公の調教ゲームが出ると信じておりますぞ』(2785天井下) 1+3p

「私も悪久ちゃんが主人公の調教ゲーやりたいですぞー！！　他にも平グモちゃんについてゲーム、コーナー、前回表紙等へご感想やメッセージ下さった方ありがとうございました！　参考にさせていただきます一大切にいたします！」　　　　【Lem】

『オッジッキどの〜〜！　ノブリンの印象が強すぎてヒロインがかすむ勢いでしたヨ（笑）　ノブリンルートがないのが解せないレヴェルの良キャラでしたよ』
(3789B.B.) 1+3p

「ありがとうございます。というわけで今回はノブリンルートの導入編にしてみました。ヒロイン出てこないじゃん！　つ、次はヒロイン出る、かなぁ？」　　　　【岩清水】

『「クリスマス休戦」のイベントで最初は「いくらなんでもそれはないでしょ（笑）」とか思ってしまってのですが、調べてみると本当にあってたみたいでビックリしました。事実は小説より奇なり、ですね。そして、疑ってしまって申し訳ありませんでした』　　　　(3885御船岬) 1+3p

「wikiよりも信憑性がないと定評のある平グモちゃんですから、ちゃんと調べていただけて嬉しい限りです」　　　　【岩清水】

○星継駅擾乱譚

『ヒプノマリアが素晴らしかったです。彼女の恋愛の話とか読んでみたいですが、ガラス細工みたいに綺麗なので距離を置いたまま鑑賞していたい気もします』
(3623anapest) 1+3p

「ヒプノマリアの過去のあれこれに関しては（色恋沙汰？　も含めて）、次回作「星継駅年代史」で語られる予定です。贈っていただいた、硝子細工のような、という言葉こそ綺麗な賛ですが、過去のヒプノはも

うちょっと、やんちゃだった……かも知れませんｊ　【希】

○黄雷のガクトゥーン

『次の会報が届く頃にはもう発売しているのですね。まさかの特典が男女別になるとは…ライアーさんの支持者の男女比が判明するのですね…（ｿﾜｧ）もちろん両方買いますが』　（3580ささめけ）1+3p
「発売させていただきました！　そうなのです、男女比が判明は…男性が女の子用をご購入されたり、女性が男の子用をご購入されたりのケースもあって、微妙に判明せず…ただ、統計的にはFC通販でそれとなくっ」　【桜井】

『BGM Fesでガクトゥーンのムービー見ました。大画面で大変迫力があり、また魅力的なキャラが次々と紹介され、実にワクワクしました。スチパンシリーズなので購入は確定していましたが、これは事前の期待としては過去最大のものです。規模も今までに比べさらに大きそうですし、本当に楽しみです』
（3192トリスメギストス）1+3p
「ありがとうございます。お楽しみいただけたでしょうか、わくわく…！」【桜井】

『ネオンの紹介を拝見させて頂いたのですが、ひしひしと魅力が伝わって…。それと、ヴァルターが凄く自分好みなのはどうしてでしょう。これは速度について勉強をしないといけませんね…！　冬の季節がこんなにも待ち遠しいのは、幼い頃以来かもしれません（笑）』　（4099夢幻）1+3p
「ネオン、ヴァルター君、いかがだったでしょうか。どうかどうか、お楽しみいただけていますように…！」　【桜井】

○同人誌紹介



●ぽんたろさま
新刊２種、携帯クリーナーストラップ２種、メガネふき２種、マグカップ、ポストカード
『スチームパンクシリーズの同人誌を作らせていただきました。本とグッズについては新規通販の募集はしておりませんが、年内２度程度のイベント参加予定があります』
「沢山の同人誌とグッズをありがとうございます、マグカップまで！　スタッフ一同喜んでいます。わーい！　バレンタインチョコもありがとうございますっ」【桜井】



●Lemさま
平グモちゃん同人誌、平グモちゃんキーホルダー３種
『サークル名「DRAGULA」虎の穴さんの通販にて販売中です。平グモで検索してね！』
「平グモちゃんキーホルダー、めちゃくちゃ可愛いです！　ぜひぜひ皆さまもお手元にー！」　【桜井】

○その他のコーナー宛

『インガノックFVRで新規の絵を見たら堪らん感じになりました。特典同人誌でも思いましたが、絵の色気度、というか、ギー先生の、色気度が、上がり、すぎです。ごち……ありがとうございました。ところでアティ嬢の復活黄金瞳の視力は良いのでしょうか。片目だけ要眼鏡？　素朴な疑問』
（4077陸朗）1+3p
「大石さんの描画パワー、パワーアップされていますよね…わたしもFVRの新規イラスト各種は感激しきりでした…。アティの視力は両目とも人間よりは良いものの《猫虎》としては平均的です。片目だけどうということはない…はず？」　【桜井】

『ジャイアニズム読みました。まさか嘘屋が天下のニトロと組んで仕事するとは……』『セレナリアガイドのような細かくて量の濃くて多い設定資料集はこの後出ますか？』　（3753木村）1+3p
「ありがとうございます。ニトロプラスさまとのコラボレーション小説＋CD『灰燼のカルシェール』はこの会報が出る頃には発売されていることと思います。そして、シリーズ集大成的な設定資料集は…現在、企画蠢動中です…！」【桜井】
「うおお、頑張ります＞＜　ニトロさんの本はこの号出る頃には一般販売されている？　本も音も素晴らしいので是非！」　【やんばる】

『灰燼のカルシェール楽しみです。ノベルだとだいぶ違った雰囲気を味わえるのかな？とわくわくしてます！』　（4103リーカ）1+3p
「ありがとうございます。１本道のADVとして続いてきたスチームパンク・シリーズを綴ってきたわたしの『別ルート、別エンド』についてのひとつの回答として仕上げた作品です。作品そのものが『シリーズの別ルート』となっています。どうかどうか、お楽しみいただけますようにっ」
【桜井】

『鳥さんといっしょは誰も得しないとありますが、少なくとも僕は得してます！(笑)』
（4215masukenp）1+3p
「私も得しています！というか文倉さんしか損してない気がする！　そんなエンバレコーナーと文倉さんに応援メッセージお待ちしております！」　【やんばる】

『コミケ出展、お疲れ様でした。会場限定のトートバッグ、とても気に入ってるんでこれからどんどん使っていこうと思います。そしてスタッフの方が着ていらしたＬＩＡＲロゴＴシャツの販売はいつになりますか？笑』　（4198集団疎開）1+3p
「夏コミ・ＢＧＭ・電気外と昨年後半はイベント３つも出ました。これからもアクティブなライアーソフトにご期待ください！
Ｔシャツは、どのくらい欲しい方いらっ

しゃるんですかねー？　次号向けにTシャツ希望者さんは投稿のその他で「私も欲しい！」とお送りくださいー」【やんばる】

『鳥さんが大好きです。所で本題ですが、データが吹っ飛んで、大好きな大好きなかわしまりのさんの歌が聴けなくなってしまいました。どうにかしてください。切望』

（4077陸朗）1+3p

「最近ライアーのユーザーになられた方は、昔の歌で思わぬ方が歌われているので知ったら驚かれるかもですねー。関係先が四散していてなかなか大変そうですが、いずれsaluteに入らない曲を集めたライアーボーカルコレクションとかを企画してみるのはありかもしれません。こちらも上記同様希望者は投稿で熱意を伝えてくださいませー」【やんばる】

『B.G.M fesに行けなかったのですが、ライブのグッズはもちろんのこと、ＦＣ通販のもぐもぐガムのおまけが嬉しかったです。ライブ会場の雰囲気がちょっとでも伝わってくるようで。かわいくてもったいなくて食べれませんが、でも賞味期限前には、た、食べ、うぐぐ、やっぱりかわいくて食べられないかもです！』

（3084ニコ）1+3p

「ガム、思いの外可愛くできて満足でした！　ああいう景品系アイテムはきっかけがないとなかなか作りづらいですが、機を見計らってまたやりたいですねー。ガムは賞味期限前に写真を撮ってから食べてあげてください！　リリィとＡを一度にほおばる背徳プレー？を是非！」【やんばる】

『BGMfesおつかれさまでした！メドレーのラインナップがいろんなのが混ざっていていい意味でカオスでしたwやっぱり生で聞けるのはうれしいですね！またライブお願いします、ライアーさん！とりあえずBGMの二回目は参加確定ですよね！？』

（3789B.B.)1+3p

「BGMfesご来場ありがとうございましたー！ライアー、というか私的にはあそこで結構出し尽くした感があるので、次回はすぐには考えられないというのが本音ですねー。bambooさんとの仕事は楽しかったですしイノグレさんとのコラボもしかり。また違うアプローチが思いついたら前向きに検討いたします！」【やんばる】

『夏コミ初出展＆B.G.M.Fes参加お疲れ様でした！夏コミのこじんまりとしながらも凝った作りのブース可愛かったです。グッズはどれも素敵で…！英訳ワールドガイドの装丁は海外で作られたようなお洒落さ。英訳も興味深く読ませて頂きました。B.G.M.Fesは本当にお祭りで楽しかったです！まさかの型抜き(笑)やイノグレさんとのコラボCD＆小説。ティンダロスは一度だけしか演奏しないのは勿体無い！イノグレ＆ライアーで合同ライヴとか如何でしょうか？すごくカオスでたのしそうです～。今後のニトロコラボ小説企画やソナーニルPSP移植などもすごく楽しみです！』

（2595サハラ）1+3p

「イベントいろいろお越しいただきありがとうございます！　ティンダロスは完全新曲と分かった瞬間の会場の空気感、ちょっとぞくっとしました！　あれもこれも付き合いのいいイノグレさんのおかげ！　みんな「虚ノ少女」も買いましょう！　そしてイノグレさんに「ライアーとなんかやってください」と伝えるんだｗ」【やんばる】

『毎度イラストが素敵です。時計ウサギの服には気づきませんでした…。ぐぬぬ』

（3640悠季）1+3p

「Ｆｏｒｅｓｔコーナー、惜しまれつつも今回で最終回です。毎回素晴らしい腕をふるってくださった大石竜子さんに盛大な拍手をー。今回の記事も、私が気づかなかった小ネタあるので是非隅々まで読んでください」【やんばる】

『ロットアップ作品のパッケージについての意見が出ていましたが、投稿ポイントと箱＆取説を交換、なんていうのは可能なのでしょうか？』（2352みぐら）1+3p

「箱や取説は基本、部材として手元に刷り見本があるくらいでバラのストックはないんですよねー。ごめんなさい」

【やんばる】

『会員になって結構長いのですが、最近になって会報の名前が「うそ＋句点」ではなく「うそまる」だということに気付きました』（2040俊太）1+5p

「そうなのです。あれは「まる」まで名前なのです。会報創刊時は某アイドルの全盛期だったので何か抵抗したかったのかもしれません。とりあえず初めて指摘された気がするのでボーナスポイント！」

【やんばる】

『読者参加企画がWEBで公開ですか！　その後が気になっていたので再開になって嬉しいです。WEBになって更にのびのびキャラ達が動くのを楽しみしています。歴史を背負った大所帯コーナーの今後に期待です！』（0674カナエ一号）1+3p

「……本当に申し訳ないです。いろいろ存続の道を探ったのですが、現状続けるのは難しそうです。近々お詫びも含め、過去の記事は全部サイトで読めるようになどしたいと思います」【やんばる】

『次回は正月に発行という事なので、表紙はお餅とか凧揚げとかになってると勝手に予想（笑）』（1446ふ～ちゃん）1+3p

「惜しい！正月に出なかったので外れです！（ゴメンナサイー）」【やんばる】

『普段からお忙しいと思うのですが、夏頃からの疾走ぶりにドキドキです。私はPCをよく酷使するので、クラッシュの話は背筋が冷えました。なるべくしないように、しても最小限度のダメージで済むようお祈りしますー。皆さんも体調等気をつけて下さい』（0674カナエ一号）1+3p

「えー、読者コーナーの最後を借りつつ、投稿にも便乗させていただきつつ改めて。私、やんばるは２０１２年末をもってライアーソフト社員ではなくなりました。今後は社外から色々と企画を出しつつ、周辺展開の拡充に努めたいと考えております。これまでは通常業務を犠牲にしてまではできなかったあれやこれや、具体的にはsalute2だったりスチパン総まとめ本だったり百合絡みだったり、皆様が喜んでくださるアイテムをお届けできるよう、全力を尽くしたいと思います。創立から14年、ファンクラブを立ち上げて12年、本当にお世話になりました。会報の編集やこのコーナーの担当など、続けるかどうか現時点ではまだ不明ですが（編集は皆様のお声次第!?）、これからもライアーソフト並びにファンクラブを宜しくお願いいたします！」

【２０１３．０１．１７　やんばる】

おみやげ物うりば

Direct shopping for fanclub only.
How to order your favorite items.

GOODS & CD



ニトロプラス様と桜井光&ＡＫ！ＲＡさんがコラボした完全新作小説！

[灰燼のカルシェール　-What a beautiful sanctuary-]

終わった世界。空と海と大地が死して、あらゆる街が廃墟となり、命なき機械の体で怨恨の声をあげる機械死人（サイバーゾンビ）が、不幸にも生き残った命を食らう。命は刈り尽くされ、世界は静かになった。やがて機械死人も、一体、また一体と朽ちていった。けれども――ここに、旅をする最後の人がいた。ひとりは青年・キリエ。ひとりは少女・ジュヌヴィエーヴ。最後に残ったふたり、でも、命は、ひとつだけ……。

336pに及ぶ小説＋この本のために"ZIZZ STUDIO"様、"VERTUEUX"様が新規作成した主題歌＋サウンドトラック付き！

通販価格　2,500円(税込)

DENKIGAI MATSURI12W



[ガクトゥーンタペストリー]

ジャイアニズム誌を飾った千枚猫さんの書き下ろしビジュアルがタペストリーに！

W７２０×H５２０mm
ダブルスエード素材
ビニール封入

通販価格　3,500円
＋梱包料２００円（税込）

※タペストリーは形状の都合上、他のグッズとは別送となります。ご了承ください。



[ガクトゥーン応援イラストカレンダー]

ガクトゥーン発売前を盛り上げた応援イラストを２０１３年のカレンダーにしました！

通販価格　1,000円(税込)



[ガクトゥーンクリアファイルセット]

主要キャラクターとポスタービジュアルで構成した、黄雷のガクトゥーンクリアファイル２枚組セット！

通販価格　500円(税込)



[ガクトゥーンフリース膝掛け]

作品中の印象的なビジュアルをフワフワ暖かいフリース素材の膝掛けにしました！

W７３０×H５２０mm
印刷面：ＡＪスムース／裏面：フリース（グレー）
ビニール封入

通販価格　3,000円(税込)



[レイル文庫最新刊「星継駅年代史」]

ゲームに先んじて、希の最新作がレイル文庫で登場！　ＤＬ販売中の「星継駅擾乱譚」と舞台を共有する物語を是非お楽しみください！

通販価格　500円(税込)

※本グッズは単品注文の場合、メール便でもお送りできます。送料３００円を一緒にご入金の上、備考欄・送付いただく控えに「メール便希望」とお書き添えください。

B.G.M.Festival 1

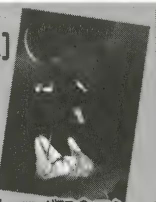


話題沸騰のコラボCD！

[隻眼のティンダロス]

業界を代表する（？）異色ブランドのInnocent Grey様とライアーソフトがタッグを組んでお送りするＣＤ！
ライブで初披露した霜月はるかさん&Ritaさんツインボーカルでおくる表題曲「隻眼のティンダロス」の他、両ブランドの代表曲を折倉俊則氏がアレンジしたメドレー＋両ブランドのライブ演奏曲４曲を収録した、豪華装丁の２枚組！

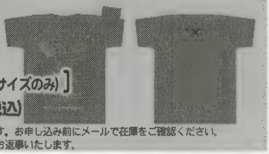
通販価格　2,000円(税込)



[隻眼のリタツキン]

コラボを記念して制作された、ビジュアル&インタビュー盛りだくさん、桜井光の書き下ろし小説も収録したフルカラー冊子！

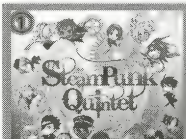
通販価格　1,000円(税込)



[コラボ記念Tシャツ(Lサイズのみ)]

通販価格　2,000円(税込)

※冊子・Tシャツは在庫僅少となっております。お申し込み前にメールで在庫をご確認ください。
代引きの場合はお申し込み後、在庫の有無をお返事いたします。

①


②


③


④


OTHER GOODS

⑤


①スチームパンクシリーズドラマＣＤ「SteamPunk Quintet」2,000円
②スチームパンクシリーズ英訳ガイド「The Rough Guide to STEAMPUNKWORLD」1,000円
③ライアー&レイルポスターアートコレクション　1,500円
④レイル文庫「星継駅擾乱譚」　500円
⑤スチームパンクシリーズボーカルコレクション「ricordo」2,500円
⑥スチームパンクシリーズ５周年記念本　1,000円
⑦ライアー&Ritaボーカルコレクション「salute!」　3,000円
⑧蒼天のセレナリアファンブック「セレナリア・ザ・ガイド」　1,800円
⑨スチパンライブ記念マイクロファイバータオル　500円

※①②④⑤⑥⑦⑨は単品注文の場合はメール便でも発送可能です。
送料３００円を一緒にご入金の上、備考欄・送付いただく控えに「メール便希望」とお書き添えください。


⑥


⑦


⑧


⑨

USO. BACKNUMBER　月刊うそ。バックナンバー

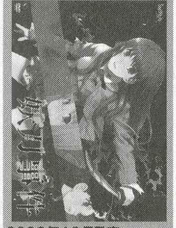
現在在庫があるのは第1～14、16～28、31、33～35、37～42号です。
1冊400円（税込・送料込）。通販は現在、郵便振替または代引きで受け付けております。郵便振替の場合は、通信欄にご希望の号数と冊数を明記してください。
最新の在庫状況はWEBでもお知らせしております。

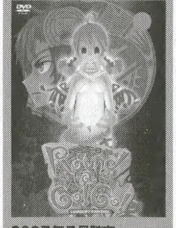


第25弾『水スペ川野ロノブ探検隊』までの作品、及びレイル第1弾『霞外籠逗留記』は販売を終了いたしました。 現在、追加生産・通販は行っておりません。一部タイトルは弊社HPよりDL販売しております。『妖刀事件』は市場販売を終了いたしました。同タイトルはDL販売を予定しておりませんが、FC通販では今後もお求めいただけます。「紅殻町博物誌」は近日販売を終了しDL販売に移行いたします。『FD3読参子育成計画』はファンクラブ通販のみの限定商品となり、現生産数のみで販売終了となります。

『FD3読参子育成計画』

2004年11月発売
通販価格 2,000円（送料込）

『妖刀事件』

2006年10月発売
通販価格 6,800円/7,400円（※1）

『Round a Go! Go!』

2007年7月発売
通販価格 5,400円（※2）

『紅殻町博物誌』

2009年7月発売
通販価格 7,040円（※3）

『白光のヴァルーシア』

2009年11月発売
通販価格 7,040円（※4）

『どすこい！女雪相撲』

2010年3月発売
通販価格 7,040円（※5）

『信天翁航海録』

2010年7月発売
通販価格 7,040円（※6）

『紫影のソナーニル』

2010年11月発売
通販価格 7,040円（※7）

『ハチポチ』

2011年3月発売
通販価格 7,040円（※8）

『オイランルージュ』

2011年7月発売
通販価格 7,040円（※9）

『花散峪山人考』

2011年11月発売
通販価格 7,040円（※10）

『Steampunk Full-voice ReBORN』

2011年12月発売
通販価格 各3,000円（※11）

『屋上の百合霊さん』

2012年3月発売
通販価格 7,040円（※12）

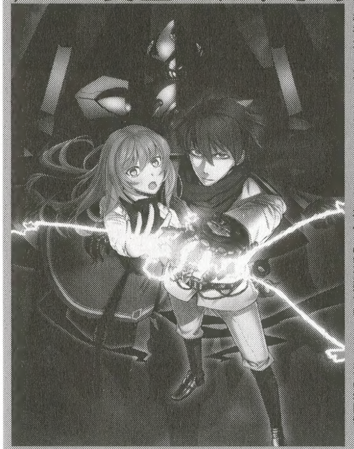
『平グモちゃん』

2012年7月発売
通販価格 限定版7,800円
／通常版7,040円（※13）

『スチパンFD』

2012年8月発売
通販価格 3,000円（※14）

最新作！『黄雷のガクトゥーン』



洋上に浮かぶ巨大学園都市「マルセイユ洋上学園都市」に現れた転校生、ニコラ・テスラ。自称72歳の彼は、学園の頂点に立つ「統治会」への反抗を公然と宣言し、少女・ネオンを助手にする。

桜井光・スチームパンクシリーズ2年ぶりの完全新作はシリーズ初の学園物！

DVD－ROM専用（※15）
2012年12月発売 通販価格 **7,040円**

※現在「初回版」をお求めいただけます。ロットアップ後、通常版に切り替わります。

通販特典

※1：『書き下ろしNETRIDEカード』付き7400円（NETRIDEカードはダウンロード販売にご利用いただける金券です。不要の方は6800円で本体のみお求めいただけます）／※2：卓上カレンダー付き（カレンダーはソフト発売当時の物ですので、今は実用いただけません）／※3：おまけシナリオCD「人見十湖のG級ソロ日記」付き／※4：おまけシナリオCD「それは、彼女達の幕間」付き／※5：おまけシナリオCD「胸がドキドキ宇宙場所体験」付き／※6：特典冊子「信天翁航海録流出版」付き／※7：おまけシナリオCD「幾つかの、冴えたやり方」付き／※8：特典冊子「月刊うそ特別号」付き／※9：特典ROM「ある大紋日の高瀬屋」付き／※10：特典CD「レイルソフトサウンドトラック」付き／※11：スタッフ同人誌「スチパントリビュート」付き／※12：特典ドラマCD＋挿入歌マキシCD付き（マキシは在庫次第で終了となります）／※13：特典ROM「平グモちゃんペーパークラフト」付き（限定版は同梱でサウンドトラックと設定資料冊子がつきます）／※14：特典ノベルペーパー付き／※15：特典アペンドシナリオCD付き

▼一部、限定特典の在庫確認はメールにてお願いいたします。

■ヤマト便送料

下記に該当しない地区	640円
関西地区 北東北地区	740円
中国地区	850円
四国地区	950円
北海道 九州地区	1060円
沖縄地区	1260円

◎通信販売について

グッズ・ソフトには郵便振替、銀行振込、現金書留、**ヤマト便代引**がご利用いただけます。

①郵便振替の場合
00140－1－600184
加入者名 ㈱ビジネスパートナー
※通信欄に希望商品名・配達希望日時／時間をお書きください。氏名・住所・TELもお忘れなく！

②銀行振込の場合
みずほ銀行新宿支店（普）5431181
加入者名 ㈱ビジネスパートナー
※入金後、控えをFAXまたは郵送で弊社までお送りください。その際、住所・氏名・TEL・ご希望の 商品名・ご希望の配達曜日／時間をお書きください。

【控えの送り先】（FAX）03－3355－6736
（郵送）奥付の住所へ「通販」係宛に

③現金書留の場合
※奥付の住所まで、代金をお送りください。
封筒内に氏名・住所・TEL・ご希望の商品名、ご希望の配達曜日／時間をお書きください。

④ヤマト便代引きの場合
※ホームページの「**代引き申し込みフォーム**」より、ご希望の商品をご予約ください。折り返し、注文確認メールをお送りします。お申し込み内容に間違いない場合は、1～2週間前後でお送りしますので、お受け取り時に代金をお支払いください。お申し込み内容に間違いがある場合、キャンセルする場合は終了3日以内にその旨メールにてお送りください。

※代引き以外でのご注文時、メール便でお送りできない荷物につきましては、左の送料を追加でご入金いただくか、着払いでお受け取りとなります。

※FC会報・ファンディスクの価格は送料込みです。単体でのご注文時はメール便でお送りします。他のアイテムと一緒にお申し込みいただいた場合は着払いでお送りいたします。



投稿者名／如月Ⅱさんのトピックスネタ《平グモちゃんの食べ歩き本 発売中》採用させていただきました！

ライアースタッフQ&A

第5回「しまさらゆめき」グラフィッカー

・お名前の由来が知りたいです。（カナエ一号さん）
本名のアナグラムを当て字で漢字化、一部音訓読みを変えてひらがな表記にしています。漢字だと読み間違える人が続出だったのです…。

・グラフィックチーフってどんな事をするのか、簡潔に説明をお願いします。（ふ～ちゃんさん）
仕事の差配と最終仕上げが主な仕事です。その他のこまごまとした事もしてるので偉い雑用係とも言います。

・お仕事で特に気を使っているのはどんなところでしょうか？（竜宮さん）
仕事は切れ目なく続くのでペース配分に注意ですが、言うは易く行なうは難しです（反省のポーズ）

・独自の塗りを開発するより、一般的なギャルゲ塗りのほうが完成が早いですか？（みぐらさん）
慣れてしまうとあまり変わらないです。毎回慣れたものをリセットしてしまうのが少し大変です。

・今までの作品の中で一番お気に入りのCGだったりシーンだったりはなんでしょう？（グアゼさん）
どの作品にもお気に入りCGはあるので一番は難しい～！シーンですと近作では百合霊さんのクライマックスや平グモちゃんの聚楽ちゃん関係のシーン、ガクトゥーンのヴァルターの辺りなどが好きです。

・最初に買った抱き枕カバー(特典&付録も含む)ってありますか？（如月IIさん）

・セリオへの愛はもう冷めました?（トリスメギストス）
セリオの抱き枕しか持っていませんよ～。今もセリオ大好きですよ～

・カップ麺のヤキソバでイチオシは何ですか？（ニコさん、ふ～ちゃんさん）
「ペヤング」と「俺の塩」が好きですね～。限定ものはすぐ店頭から消えてしまうので美味しくても通年で食べられないのが残念です。

・登場キャラ全員がメガネという素敵ゲームの開発はまだでしょうか？（悠季さん）
社長！こんな声がありますよ。さぁこの「眼鏡屋さん細腕繁盛記（仮）」の企画を…！！

以上です。ご質問ありがとうございました。

※質問をお送りいただいた皆様に3ｐ、採用者には5ｐを差し上げます。次回はスクリプトや管理業務で頑張る禾刀郷さんへの質問を募集します！

【編集後記】そのようなわけで（ｔｗｉｔｔｅｒ／投稿コーナー参照）■やんばるは今後外注としてライアーに関わっていくことになりました■創立時からのメンバーとして愛着ある会社や自分で企画立ち上げしたファンクラブに内部で関われなくなるのは残念ですが■会社１４年も経つと前へ進むには大きな変化が必要な時もありますなー■今後も様々な形で会社には関わっていきますので是非前向きに送り出していただけましたらー■取り急ぎ会報の編集を継続するかどうかなのですが■私的にはずっとやりたいお仕事ですので■今後も縁があることを切に願います■残るメンバーにもどうぞ暖かい激励と愛の鞭をお願いいたします■ではまた会う日まで！

会員専用ホームページ ※URLが変わりました！
http://www.liar.co.jp/cgi-bin/gate/gate.cgi
ID：member　pass：uso800
壁紙データ、専用ボイスなどがダウンロードできます。

ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』第43号
年4回季刊発行　2013年1月31日発行

発行：(株) ビジネスパートナー　ライアーソフト
編集：山原久稲　表紙レイアウト：しまさらゆめき
表紙・巻末漫画：Ｌｅｍ　印刷：(有) あかつき印刷

《お便りの宛先》

〒160-0022　東京都新宿区新宿1-25-3
エクセルコート新宿301
FAX.03-3355-6736　e-mail fc@liar.co.jp

※会員ページの投稿フォームもご利用ください。

各投稿には『FC投稿・●●係』とコーナー名を明記してください。
第44号の掲載〆切は3月11日(月)必着！

@liar__railsoft
ライアー／レイルの告知用twitterアカウントができました！　今後はこちらからもゲームやグッズの情報出しますので是非フォローしてやってください！



ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』
二〇一三年一月三一日発行
年四回季刊発行
(株)ビジネスパートナー ライアーソフト